

メールマガジン「すだち」

2周年記念総集編

法人化後の附属図書館のあり方 黒田泰弘1	メールマガジン「すだち」のできるまで7
徳島大学附属図書館の課題と今後について 細井和雄2	クリック回数が見るメルマガの人気度9
もっと図書館の利用を 岸江信介5	連載記事総集編10
図書館に期待すること 高浜洋介5	(1)WoS にウォッス(2)あかりさんの卒論書がなくなっちゃ (3)Hot な棚、見てある記
近世大名(蜂須賀家)家臣団家譜史料データベース 公開の意義 桑原 恵6	メールマガジン掲載記事一覧23
	法人化後における附属図書館に関する事業等.....30

法人化後の附属図書館のあり方

総務担当理事 黒田泰弘



平成16年4月に国立徳島大学は、法人化されて国立大学法人徳島大学になりました。法人化後、大学の運営においては、計画を立てて実行し、その結果を評価して改善に結び付ける PDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクルを機能させることの大切さが、

いままで以上に強調され、重視されています。

附属図書館では学生用図書の整備・充実、電子ジャーナルの充実、地域住民への図書館サービスの推進、図書館利用者に対する積極的な情報発信など、より良い図書館をめざして教育、研究、社会貢献、業務運営の面で大学附属図書館としての役割を果たすための計画が立てられ、実行されています。

しかし、最も大切なことは、実行することではなく、実行して効果を上げることです。例えば、地域住民への図書館サービスを学生並に向上する場合、貸出期間や貸出冊数をただ単に学生並にするだけでなく、そうすることによって地域住民によるこぼれ、図書館利用登録者数

が増えることを確かめることが大切です。このことをいつも心掛ける必要があります。

附属図書館では、情報公開の推進の一環としてメールマガジン「すだち」を、従来の広報冊子「すだち」に代わって立ち上げ、今年、2周年を迎えました。大学附属図書館でこのようなメールマガジンを立ち上げている大学はまだ少なく本学の附属図書館は、全国的にもこの面で進んだ大学附属図書館といえましょう。

メールマガジン「すだち」の立ち上げの狙いは、速報性、経済性に優れ、より効果的・効率的な情報伝達方法であるメールマガジンによって附属図書館の広報活動を展開することにあります。メールマガジン「すだち」も附属図書館利用者の意見を参考にしながらその内容を利用者のニーズに合ったものに絶えず更新して附属図書館利用者によるこぼれるものにして、図書館利用者数の増加に繋がなくてはなりません。

メールマガジン「すだち」が、附属図書館利用者の皆様のご支援によって、利用者に愛され、進化し続けるメールマガジンであることを心より願っております。

徳島大学附属図書館の課題と今後について

附属図書館長 細井和雄



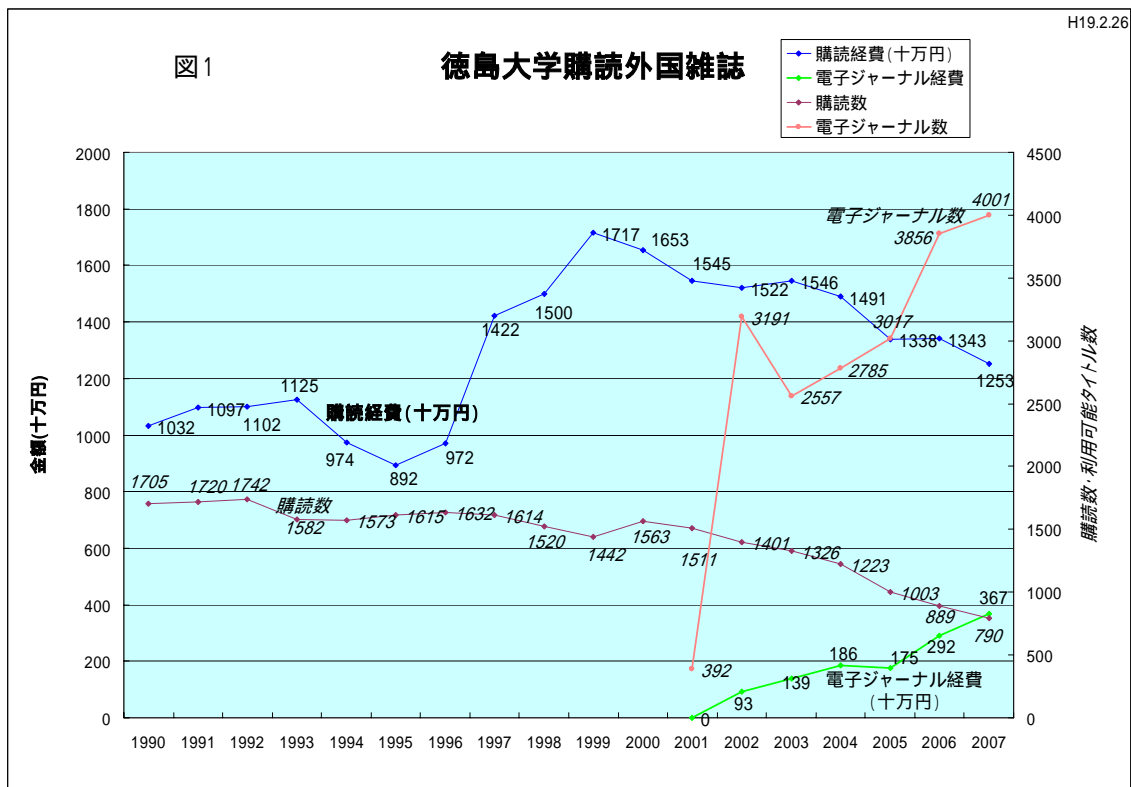
平成 17 年 4 月より 2 年間、附属図書館長を務めさせていただきました。本年 3 月末日に任期満了いたしますので、この機会にこの間の本学図書館の動向と今後の展望について述べさせていただきます。

させていただきます。

電子ジャーナルとデータベース

近年、大学図書館のかかえる最も深刻な問題は外国雑誌の価格高騰であります。本学では外国雑誌（冊子体）は各部局から振り替えていただいた経費で購入してお

ります。1990 年～1996 年頃までは全学で 9,000 万円～1 億円を外国雑誌購入に計上しておりましたが、1990 年代から外国雑誌が値上がりし（およそ年 10% のハイペース）購読規模を維持するため、これに投入する経費も増加いたしました。1999 年には 1 億 7,000 万円の予算を注ぎこみました。しかしこの金額が限界で、大学全体の予算が削減される中、外国雑誌に計上できる予算は減少し、2007 年には外国雑誌購読経費は 1 億 2,500 万円になっております。これだけの金額を投入しても購入できるタイトル数は 1990 年当時（1,705 タイトル）の半分以上、790 タイトル（2007 年）になりました（図 1）。



一方、2001 年頃より電子ジャーナルが出現し、大学等の電子ジャーナルコンソーシアムに参加し、一定数の外国雑誌（冊子体）を購読していれば比較的安い金額で多くのタイトルの雑誌の電子媒体を閲覧できるようになりました。しかし電子ジャーナルは一般的に、（１）購読料金を支払えないとその年の分だけでなくその雑誌の過去の分（たとえ過去に購読料金を支払っていて

も）についても閲覧できないことがある。（２）その出版社の発行する雑誌の冊子体購読経費が縮小されると大学全体の購読規模維持をしなければならないため、電子ジャーナル経費が増加する - などの条件がついており、これが顧客側にとって不利な点です。しかし、一方で閲覧が可能となるタイトル数は飛躍的に増加し、図 1 に示しますように本学では 4,001 タイトル（平成

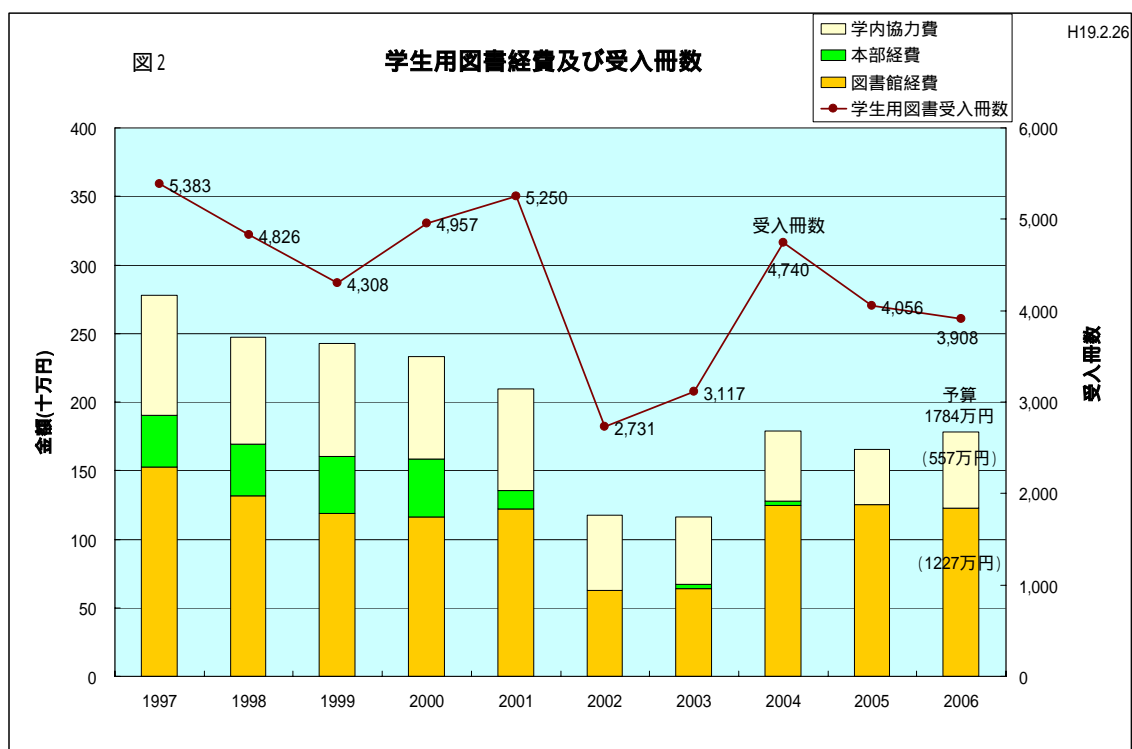
19年度)を閲覧できます。(無料の雑誌も数えるとおよそ8,700タイトルに上ります)。このタイトル数を閲覧するため平成19年度は7社と契約を結び、電子ジャーナル経費3,670万円を購読額に追加して支払います。上述のように購読冊子体経費が減少すれば電子ジャーナル経費が増額となるため各部局におかれましてはできるだけ現在の購読規模を維持していただくようお願いいたします。

平成17年度、概算要求によりデータベース予算が認められ、Web of Scienceが導入されました。本事業ではWeb of Scienceの過去10年分のデータベースと平成19年度までのカレント分の購入が認められました。本データベースは検索により見つけた文献を引用している文献を探し出すことができるのがその大きな特徴です。またトムソンサイエンティフィック社¹⁾の審査をパスした一定レベル以上の雑誌のみが収録されており、Journal Citation Report (JCR)により論文の被引用度、雑誌のインパクトファクターなどを調べることができます。本学が購読しているもうひとつの重要なデー

タベースは化学構造等から文献を検索できるSciFinder Scholar²⁾であります。これらのデータベースは高額でありますので今後、本学における利用状況等を十分調査しながら継続していくことが望まれます。

学生用図書

学生用図書経費は従来本部経費、図書館経費(文科省からの直接の経費)、および学内協力経費(各部局より支援して頂いた経費)によって賄われてきました。1997年、その総額は2,500万円でありましたが図書館経費が2001年頃から激減し、翌2002年には630万円となりました。学内協力経費もこの頃は半減しました。この状態は法人化前まで継続し、法人化後も大学によって減少分は一部が補填されただけです(図2)。図書館は図書館運営費からできるだけ支出するように努力してきましたが十分ではありませんでした。このように学生用図書にかかる経費が減少してきた最大の理由は限られた予算の中で外国雑誌に費やす費用が増加し、そのしわ寄せが学生用図書購入費に現れたためと考えられます。



徳島大学附属図書館講演会および特別展(公開)

従来、附属図書館では職員向けの研修会を行ってきました。平成17年度よりこれを地域住民が参加できる形に変えました。17年度は2月16日、徳島城博物館学芸員の根津寿夫氏をお招きし、『蜂須賀家家臣成立書』か

らみた阿波の社会史 奥女中・町手代・武芸者・「感状之家」の演題で講演をしていただきました。その後、本館特殊資料室で資料展示を行い、その解説をして頂きました。また、18年度は10月11日、本学総合科学部教授平井松午氏による「阿波・淡路の国絵図を読む」の演題の下、講演をしていただきました。講演会に合わせ

て同年 4 月に新しくオープンした徳島大学ガレリア新蔵展示室で「阿波・淡路の国絵図と五街道」の特別展を 9 月 16 日 10 月 29 日の間開催しました(入館者数、350 人)。17 年度、18 年度とも講演会には学内外からの参加者は約 100 人を数え、盛会でありました。地域貢献の一環として、また地域への大学開放手段のひとつとして今後もこの事業は続ける意義があると思われま

情報リテラシー教育

学習、教育・研究活動を支援するため、図書館利用に関するオリエンテーション、ガイダンス、電子ジャーナル・データベース講習会および情報リテラシー教育を実施してきました。平成 17 年度、18 年度合わせて O P A C 検索・各種データベース等ガイダンスを 16 種類、57 回実施いたしました。19 年度以降はこれらの事業をより充実させるために、全学共通教育センターの「学習支援室」および高度情報化基盤センターと連携することを予定しています。

本館改修・増築計画とアメニティ改善

本館の施設は、狭隘化と老朽化が著しく、また学生が図書資料を活用しながら自ら学習する場、研究者が調

稿を終えるにあたり、大学における図書館のあり方と将来について私見を述べさせていただきたいと思えます。附属図書館は大学の教育と研究を支える基盤組織(インフラ)であります。できるだけ安定に学術情報資料が収集され、利用者に提供されることが重要であります。そのためには電子ジャーナルや学生用図書などインフラに属する経費を学内共通経費化することが必要であると考えられます。また図書館長が学内の意見を運営委員会で集約し、直接または学長や担当理事を通じて、予算委員会や役員会に説明し、ご理解いただくことが重要であると考えられます。

必要な学術情報が整備されることは快適な研究環境維持につながり、優秀な教員を確保するためにも重要であります。優秀な教員の確保によって優秀な学生を確保し、育てることができると思われます。逆に学術情報の

査・研究する場としての施設が不十分です。また電子図書館への対応が十分に出来ていません。館内に改修・増築のための WG を立ちあげて検討を開始しました。

利用環境・アメニティ向上のために平成 18 年度は本館グループ研究室の改装、分館の図書自動貸出機の更新をいたしました。本館・分館ともにさらなる施設・設備の整備が必要とされています。

事務組織

平成 18 年度、法人化による経費削減の必要性から図書館事務部からも定員を削減することが求められました。その結果、図書館事務部は廃止され、図書館二課は事務局学術研究国際部内に編成されました。平成 19 年度、さらに事務組織は改変され、図書館二課は学術研究国際部から分離され財務部の情報企画課とともに、新しく設置される事務局情報部(仮称)に再編成されます。人件費削減のためある程度の事務組織の縮小はやむをえません。しかし図書館事務において図書専門職としての仕事を他の事務員で置き換えることはできません。大学は事務組織の改変を行う際にはこの点を考慮していただき、専門職の育成にも配慮していただければ幸いです。

整備の遅れは大学の研究活動に影響を与え、結果として大学全体の研究業績が確実に低下することが懸念されます。幸いにして本学では平成 18 年度より電子ジャーナル経費を学内共通経費とすることになりました。これにより部局への予算配分前にこれらの経費を予算措置することになり、電子ジャーナル経費等は安定に提供されることが約束されました。今後、現在の電子ジャーナル購読規模をできるだけ維持し、本学の高い研究レベルを維持していただけますようお願い申し上げます。

最後に、図書館で実際に働いている図書館職員の皆様の日々の支援があつてはじめて、共同利用基盤組織である図書館の運営が成り立っております。大学には働きやすい環境を提供していただくと共に専門性の維持向上にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1) Web of Science は目次速報誌 Current Contents を提供していた ISI 社のデータベースで、ISI 社は 2004 年、トムソンサイエンティフィック社になりました。

2) 米国化学会 (American Chemical Society) の一部門で Chemical Abstracts Service より提供されているデータベースです。

もっと図書館の利用を

附属図書館運営委員・総合科学部 岸江信介



附属図書館が主催する図書館利用のためのオリエンテーションに毎年新生の多くが参加するが、案外、図書館の肝心な部分が理解されていないという印象を受けることがある。例えば、昨秋、卒業研究に取りかかっている学生から

図書館の蔵書数が少ないため、読みたい図書や論文が容易に手に入らないという話を聞いた。このことを図書カウンター職員に相談したかと尋ねてみたが、相談することはなかったという。Webcat Plus などの存在はおぼろげながら知っていても実際に書籍の検索をして書籍を取り寄せたり、論文の一部のコピーを送ってもらったりしたという経験がない学生は4年生になっても意外に多いように思われる。全国の多くの大学の図書館がネットワークで結ばれており、互いに利用できるシステムなので教職員、学生ならだれでもこのサービスが受けられるのだから蔵書数が少ないとか読みたいものが容易に入手できないとか嘆く前に積極的にこのサービスを利用して、全国の多くの大学図書館が一つになっているという実感を味わってみるのもいい。

また、あるとき、留学生から修論を前にしてどうしても読んでおきたい新刊図書があるという相談を受けたことがある。県立、市立の図書館なども探してみたが見つからず、少し高価なので個人での購入を躊躇しているという。では、附属図書館で購入してもらうように頼んでみたらどうかと答えたところ、ためらいを隠さずに「私が希望する本を本当に購入してくれるのでしょうか」という質問が返ってきた。どうも自分だけが読みたい本を図書館がそう簡単には購入してくれるはずがないという先入観を強く持っている様子だった。ところが数週間後、この留学生がやってきて、「この本、図書館で買ってもらいました」と得意満面の笑顔で本を振りかざしながら話しかけてきた。この留学生のように自分が読みたい本を図書館に購入の希望を申し入れてもそうやすやすと買ってもらえないと思っている人が多いのではないだろうか。

図書運営委員の仕事に二年間携わってきて、附属図書館が公立の図書館とは決定的に異なる点にいくつか気づいた。その一つは、特に学生や教職員が図書館を常に利用しやすいように、そしてなるべく多くの方々に利用してもらえるようにと、図書館職員はつねに配慮し、努力しており、とりわけ学生に対しては、教育的立場から附属図書館を積極的に活用してほしいという思いでいろいろな工夫を凝らしている。なるべく多くの学生の要望を実現するため、個々の学生が希望する図書を優先的に取り揃えたいというのもその一環なのである。

学生時代を通じて、最も図書館を利用する時期は、一般的には卒業研究や修論に着手する時期であると思う。例えば、卒業研究や修論をすすめる過程で図書館がどのように利用されているのか、ぜひ知りたいところである。卒業を前にした学生に対し、入学後から卒業・修了までの間に図書館をどの時期にどれだけ利用したか、また、どのように利用したかなどについて卒業式や修了式までの間にアンケート調査などを通して調べてみるのも面白いのではないかと。附属図書館への要望としたい。

学生時代を通じて、最も図書館を利用する時期は、一般的には卒業研究や修論に着手する時期であると思う。例えば、卒業研究や修論をすすめる過程で図書館がどのように利用されているのか、ぜひ知りたいところである。卒業を前にした学生に対し、入学後から卒業・修了までの間に図書館をどの時期にどれだけ利用したか、また、どのように利用したかなどについて卒業式や修了式までの間にアンケート調査などを通して調べてみるのも面白いのではないかと。附属図書館への要望としたい。

図書館に期待すること

附属図書館運営委員・ゲノム機能研究センター 高浜洋介



図書館メールマガジン「すだち」の発行二周年、おめでとうございます。他大学に先駆けてのメールマガジン創刊と、その後二年間の発行継続には、ひとかたならぬご苦労があったことと推察いたします。関係者のご尽力に敬意と感謝を申し上げます。

この度、運営委員のひとりとして寄稿依頼を頂きました。メールマガジンを含む情報電子化が普及するなか、本などの印刷物すなわち紙媒体の図書にどのような価値があるのか、日頃思い巡らせていることを中心に、以

下、図書館へのエールを書き進めたいと思います。

近年の情報電子化は私たちの生活全般に浸透しています。事実、この小文は、パソコンのディスプレイを眺めながらキーボードで入力しています。そのデータはデジタル編集され、ファイルとなり、場合によってはメール配信され、ひとの目に触れるかどうかはともあれ電子情報のままゴミ箱または保存デバイス行きとなります。パソコンとインターネットが普及した今、あらゆる文書がそのようにやりとりされるようになりました。大学人として接する機会の多い科学の世界では、瞬時に世界中の人達と情報交換できる利便性は極めて大きく、電子化

は情報交換手段の標準になりました。私自身、その有用性を享受しているひとりです。メールマガジンはもとより電子情報の擡頭に積極的に対応してこられた本学図書館が、今後も電子情報の活用を積極的に進めて下さることを期待します。

一方で、電子文書の普及は紙媒体を席卷し印刷物を過去の遺物にするのでしょうか。私にはそうは思えません。自らの行動を翻った時、デジタル文書として入手した論文であっても、しっかり読もうとするときには、印刷して手に取り、斜めにしたり場所を変えたり、行きつ戻りつ読み直すことで、著者の思考回路を疑似体験しようとするのが日常です。また、どんなに電子配信ニュースが便利でも、毎朝食卓で新聞をめくる時間は新鮮ですし、本を開く音や匂いには胸が躍るものです。私には、電子ディスプレイにて情報を読む行為と、紙媒体を読む行為には、人の活動として本質的な違いがあると思えます。

机にあらうと膝に置こうと、少々持ち運びができたとしても、電子機器の利用には姿勢の角度に制限があり、限られた視線すなわち特定の思考回路で情報に臨むことが要求されます。しかも、紙媒体のように固有の装丁

も匂いも手触りもありません。多様な視点である事象に臨み、いろいろな考えを行き巡りつつ、少々突飛かもしれない思考の解決「eureka!」に至ろうとするとき、人は座ったり歩いたり、寝ころんでみたり場所を移したり、文字通り七転八倒します。この時、とことんつきあってくれるのは、持って運べて電池も切れず、様々な視線と姿勢に対応できる印刷物です。紙媒体には電子媒体が代替できない固有の特徴があり、それは知的活動にとって積極的な意義があります。知的活動の発信基地である大学の図書館には、電子情報の活用充実とともに紙媒体の適切な保存と活用を推進して下さることを大いに期待する次第です。

ふりかえれば私自身、入学した大学の図書館に初めて足を踏み入れた時、圧倒的な量の専門書と専門誌の並んだ書架の佇まいと匂いに「知の宝庫」を見る思いで感動したものです。電子媒体と紙媒体の意義を吟味しつつ、文化を発信する最高学府としての矜持を以て、今後も徳島大学附属図書館が運営されていくことを期待しております。

近世大名（蜂須賀家）家臣団家譜史料データベース公開の意義

総合科学部 桑原 恵



徳島大学附属図書館には、江戸時代に有数の国持ち大名であった蜂須賀家ゆかりの史料がいくつか収蔵されています。すでにホームページでも公開されている絵図史料もその一

つですが、そのほかにも蜂須賀家の家臣たちの家の系譜を知ることの出来る史料として「蜂須賀家臣団成立書并系図」という一群の史料があります。この史料は、蜂須賀家が家臣に対して、それぞれの家の系譜を書き上げさせたもので、天保5年(1834)に作成され、その後文久元年(1861)に書き継いで提出され、中には明治2年(1869)までを書き継いで提出したのもあります。家譜を提出した家臣は、家老などの重役から無足人と呼ばれる下級の家臣まですべてです。その内重役の家譜にあたるものは藩主個人の家に所蔵されて現在に至っており、下級家臣の部分は国立国文学資料館に所蔵されています。したがって、本学の附属図書館に所蔵されている史料は、最上級の家臣と下級の家臣を除く家臣団の家譜と言えます。その意味では、家臣団の中樞を占めていた家臣団についての系譜を知ることが出来る史料なのです。蜂須賀家は、よく知られているように尾張出身で尾張で勢力を伸ばし、その後播磨の竜野の領主となり、阿波の藩主となって明治まで阿波と淡路を支配していました。従って家臣の中には尾張出身のものや

竜野出身のもの、さらには阿波出身のものも存在しています。この「成立書」には各家の初代が誰で、どこの出身であるかを始め、いつ頃からどのような役職を勤めたか、拝領した禄高や養子となって当主となったものの実父が誰か等までが詳細に書き記されています。また、各家の家譜の記述の最後には系図が付けられ、その後には家紋が描かれています。以上述べてきたことからもおわかりのように、この「蜂須賀家臣団成立書并系図」という史料は、江戸時代の徳島藩の家臣に関する貴重な情報が記録されたものであると言えるのです。

このような情報満載の史料ですので、その利用範囲も多岐に亘ります。図書館では、平成17年度に科学研究費の交付を得て、この史料についてデータベース化を進めています。今回作業では、成立書に記載された各家の当主の名前を取り出して検索可能にしています。例えば、古文書などで姓のみや名前のみしか記載されていない場合でも、家臣であれば、姓もしくは名前から該当する可能性のある家の成立書のページを知ることができるようになっています。このような検索が容易に行えれば、上述した豊富な情報の利用もよりスムーズに行うことが可能となります。今後は、データベースの公開を進めると共に、検索情報を増やすことによって、さらに広汎な利用を可能にしていきたいと考えています。

メールマガジン「すだち」のできるまで

(1) メールマガジン「すだち」が誕生するまで

多くの大学図書館は広報活動の一つとして、図書館報を発行しています。徳島大学附属図書館でも図書館報を発行しています。昭和39年、東京オリンピックの年に創刊し、40年の歴史があります。執筆者への原稿依頼、ページ数・文字数・レイアウトの調整、締切日を考慮しての印刷依頼、校正、配布等の作業に多くの手間と時間をかけていました。

しかし、近年、IT・情報化の発達による伝達手段多様化の折り、かたくなに従来の印刷媒体による館報にこだわる必要はないのではないかと、利用者にとってその時代に合わせた最良の形態を模索すべきでないかと当時の担当係長は、検討の必要性を感じていました。

平成12年度に、図書館内の図書館報編集委員会においてこの状況を考慮し、人員削減や経費削減等により体制的・経費的に厳しくなっていることも含めた検討を行い、印刷媒体発行を見直すべしとの意見をまとめ、上司に提案したところ、否となった経緯がありました。当時担当係長は、悔しくて眠れなかったそうです。時期尚早だったというところでしょうか。

以後、毎年検討の機会を窺っていたところ、平成15年度に次年度の図書館事業計画に「図書館の広報活動の調査・検討」の事項が盛り込まれることとなりました。機が熟したというのでしょうか。当時の部課長の指示で検討を進めることになりました。平成16年度の大学が法人化したのもそのきっかけといえるでしょう。図書館内で広報検討ワーキンググループを立ち上げ広報のあり方について検討しました。誤解のないように言っておきますが、電子版あり

きで検討したわけではありません。図書館の広報とはどうあるべきか？それまでの図書館報の問題点を洗い出しました。

- ・速報性に欠ける。発行時には情報が古くなっている。
- ・学内でも対象者が1万人ほどいるのに、現在の印刷部数は2千ほどであり、中途半端になっている。学生に届いていないのではないか？
- ・経費・労力の割には読まれていない。
- ・字数や経費の制限で有益な情報が載せられないことがある。
- ・利用者の反応をつかみにくい。

このような問題点を検討した結果、徳島大学附属図書館の活動を広くお知らせして、図書館が今何をやっているのか、また、何をしようとしているのかについて、電子メールという便利な媒体を利用して積極的にお知らせしようということになりました。また、図書館ホームページとメールマガジンを使い分け、お互いのメリットを生かした広報を充実させることにより、経費節減と情報を効率よく伝達しようとすることにしました。

平成16年度第3回附属図書館運営委員会の承認後、平成17年2月より発行を開始しました。全国に先駆けてメールマガジンのみの図書館報となり徳島大学附属図書館が全国的に話題になり、現在も職員が図書館関連の会議や研修に出張した時には他大学の図書館の職員から経緯や内容のユニークさの秘訣について尋ねられることが多く、評判のメールマガジンとなっています。

(2) メルマガを出すのも、大変です。

某月下旬、メールマガジン「すだち」2X号発行。今月はなかなかスムーズに発行できたと満足して、ほっと一息つくのもつかの間、あっという間に月が明けてしまいます。

総務係長が次月の締切日をメールで連絡。記事を書く予定のある人は早めに出してくださいね、と呼びかけます。今月は10日に締切です。

さて締切を過ぎた翌11日、編集担当者の私の元に集まっていた原稿はなんと！3つ？メルマガ「すだち」は豊富な情報量がウリじゃなかったのでしょうか。たった3つの記事では発行できません！

< 苦難の記事執筆 >

後ろのほうに掲載された「掲載記事一覧」をごらんになればわかると思いますが、「すだち」は毎号10件前後の記事を載せています。『ちょうりゅう』の短いお知らせ記事から、連載のかんりの長文まで、内容は様々ですが、どれも結構苦勞しながら図書館職員が書いているのです。

連載「あかりさんの卒論書がなくなっちゃ」作成中の、あかりさんの「ノリ」が出せない！といった苦勞や（当初担当していた職員が、産休に入ってしまったのです）いつの間にか研究内容が変わっていた疑惑(!!)など、執筆担当ではない私は笑って聞いていましたが、担当者には笑い事ではなかったでしょう。

とにもかくにも、書き上がった記事は、担当課長に見てもらって第一の校正を受けます。そこでOKをもらって、ようやく記事があがってくるわけです。スローペースながら、締切の数日後にはだいたい予定の記事がすべて出揃います。

< 編集、そして発行へ >

記事が集まってくれば、あとは簡単、決まったフォーマットに収まるように文章を組んでいくだけです。締切日後から、徐々に作業をしています。長い記事は読むのに不便、ということで、本文中にリンクを張って飛べるようにしたり、一度校正してあるはずなのに文章がおかしいところは、適宜修正したりしていきます。

ところで「すだち」では、いつも文字の多い誌面を少しでもにぎやかにしようと、できるだけ写真を挿入するようにしています。回線速度の遅い環境でも、スムーズに見られる程度のサイズを心がけているせいか、あるいは単なる腕の問題なのか、写りの悪い写真も多々ありますが……。また、厳しい課長に

「センスがない！」と断言された写真も、メルマガにはそのまま使われていたりします。

記事を組み終わると、次長に最終チェックを受けます。そこでは「ああっ」と思うような指摘を受けることも。「これはいらぬ」と文章をばっさり削られたり、逆に「あれ！この話は記事にしてないの？」と根本的な増量を要求されたり。スムーズに行くときはスムーズなのに、引っかかると長いのがこの最終チェックです。最終チェックをクリアすれば、あとは決裁を回して発行するだけ！と思ったら、なんとこの段階で誤字・脱字を発見したりしながら（たまにあるんです、それが）発行準備は進みます。

附属図書館のホームページを管理している電子情報係の担当者に依頼して、写真などのファイルをサーバにアップしてもらってから、最後に自分から自分へテスト送信して誌面をチェック。それが済んだら、メルマガ送信用ソフト「同報@メール」でメール送信。「すだち」の送信数は1500件以上。あまり多くのメールを一度に送るのはサーバに良くないそうで、分割送信の設定をしているせいか、全部送信し終わるまでには30分くらいかかっています。

< 恐怖の訂正、焦る期限 >

メールマガジンを送るにあたって、いちばん気を付けるのは訂正を出さないこと、と言っても過言ではないかもしれません。「ああ、今月もちゃんとメルマガが出せた！」と思った途端にやってくる「訂正」の恐怖。間違いに気づくなら送信する前か、ずっと後にしてよ！と思ってしまいますが……後はいけませんね。ちなみに、これまでに2回、「すだち」は訂正版を発行しています。間違った情報を流してはいけない、というのは当たり前のことですが、慌てて訂正版を作成して送信するのはヒヤヒヤもので、心臓にもよくありません。

なかなか記事が集まらない、というのんびりしているようですが、決して期限に追われていないわけではないのです。1つは「毎月発行」という目標。あんまり遅れて翌月にずれ込むのだけは、避けたいところです。もう1つは「23日の講習会の告知記事がある」というような状態。なんとしてでも22日以前に出さないと間に合いません！

これからも、新鮮な図書館情報を新鮮なうちにお届けできるように、メールマガジン「すだち」発行への戦いは続きます。

クリック回数が示すメルマガの人気度

メールマガジンの本文中にリンク記事があります。読者の反応を知るための一つの方法として、下記のようなリンク記事のクリックレポートを内部資料として毎月作成しています。

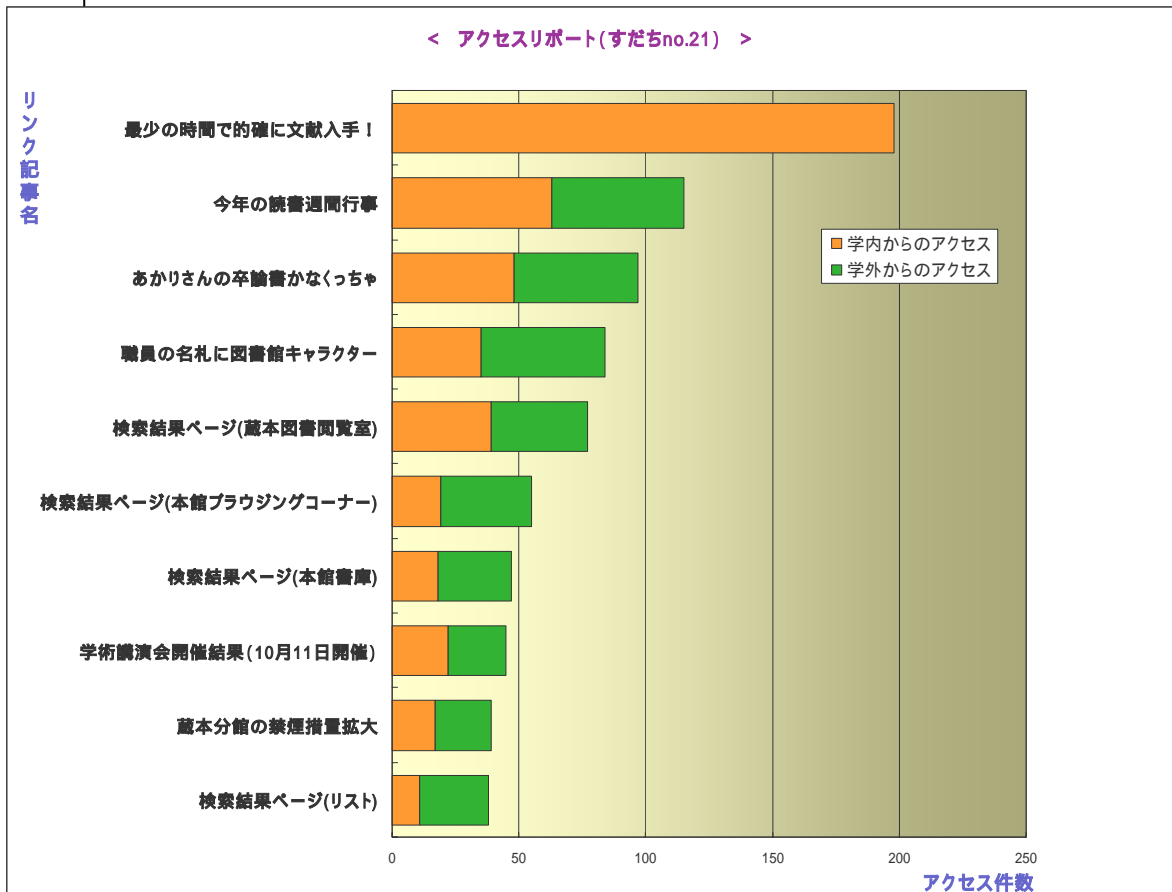
「すだち」アクセス報告書

電子情報係

メールマガジン「すだち」No.21(2006/10/24)のリンク記事について、発行時からのアクセス合計795回について報告します。
 なお、前回「すだち」No.20の各リンク(6頁)へのアクセス合計は、428回でした。

今年の読書週間行事 ポスター (http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/m-mag/back/021/shiori.pdf)	115回(52回)
最少の時間で的確に文献入手! (http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/database/trial/linkresolver.html)	198回(-回)
あかりさんの卒論書がなくなっちゃ<10月、さあ後期がんばるぞ編> (http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/m-mag/back/021/21-1.html)	97回(49回)
学内蔵書検索(OPAC)の検索結果ページ (http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/wmap/0L0830.html)	55回(36回)
(http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/wmap/0L0200-n.html)	47回(29回)
(http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/wmap/1L0400.html)	77回(38回)
(http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/wmap/list.html)	38回(27回)
学術講演会開催結果(10月11日開催) (http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/m-mag/back/021/21-2.html)	45回(23回)

注)この頁のアクセスは学内のみ



上記は、平成18年10月24日発行のメールマガジン「すだち」21号のクリックレポートを棒グラフにしたものです。この統計により利用者の関心を分析し、次号の記事に生かしています。読者拡大に活用したいと考えています。

(1) WoS にウォッス (10号~16号)

学術論文データベース Web of Science の利用についてのちょっとしたヒント。

第1回目 気になる論文の人気度を見張る (10号・2005.11)

気になっている論文がありますか。ライバルの論文であったり、自著であったり、その人気度を知っておきたい論文があるかと思えます。もし、その論文が他の論文に引用されると電子メールで知らせてくれる機能が Web of Science にあります。手順は簡単です。

- (1)図書館ホームページから、データベース、Web of Science をクリックします。
- (2)Web of Science Go ボタンを押します。
- (3)GENERAL SEARCH をクリックします。
- (4)TOPIC 欄の論題の一部、AUTHOR 欄に姓を入力して、Search ボタンを押します。

- (5)一覧の中から該当論文を見つけます。
- (6)画面右の Create Citation Alert ボタンを押します。

自分の e-mail アドレスを入力すると、後は自動的に電子メールで知らせてくれます。

自分の登録した関心分野の論文が刊行されるたびに知らせてくれる機能はよくありますが、引用をチェックしてくれるというのはこのデータベース固有の機能です。ライバルの論文を登録しておく、知らせメールが届くたびにやきもきすることになるかもしれませんね。

第2回目 引用と被引用 (11号・2005.12)

Web of Science の論文詳細表示画面では、引用数と被引用の回数が次のように示されます。

Cited References: 51 Times Cited: 37

Cited という単語が両方に入っているために、この両者がこんがらがることがあります。Cited References はこの論文が引用した文献の数、Times Cited はこの論文が引用された回数とでも訳すのですが、和訳したと

ころで分かりにくさは変わりません。

それぞれ2つの単語からなっていますが、最初の1語だけに注目すると少しわかりにくさが解消されます。つまり Cited と Times だけにします。

「引用した」、「回数」となりますから、その意味するところが混乱なくつかめるでしょう。

第3回目 Book の引用も探せます (12号・2006.1)

Web of Science の収録対象は学術雑誌です。一般の OPAC のように図書は探すことができません。しかし収録された学術論文が引用しているものは探すことができます。その論文が図書を引用していたらそれを探ることができるわけです。

レイチェル・カーソン著『沈黙の春』は、環境汚染のおそろしさを訴えた衝撃の図書で、今から40年前に出版

されました。この図書を引用している学術論文を Web of Science で探してみましよう。

- (1)上手に検索するために OPAC(学内蔵書検索)等で正しい書名、著者名を確認します。原書名、著者のつづりが分からないときは翻訳書名(『沈黙の春』)で探して、そこから原書の情報を得ます。

沈黙の春 / レイチェル・カーソン [著]; 青樹築一訳<チンモク ノ ハル>. -- 62 刷改版. --(BA6923629X)

東京 : 新潮社, 2004.6

394p ; 16cm. -- (新潮文庫 ; カ-4-1)

ISBN: 4102074015

別タイトル: Silent spring

著者標目: Carson, Rachel, 1907-1964 ; 青樹, 築一<アオキ, リョウイチ>

原書の書名と著者のつづりが分かったところであらためて OPAC で原書の情報を検索します。

Silent spring / by Rachel Carson ; introduction by Lord Shackleton ; preface by Julian Huxley. -- (BA21140227)

London : Readers Union, Hamish Hamilton, c1962

xxii, 304 p. ; 21 cm

注記: Bibliography: p. 245-293 ; Includes index

著者標目: Carson, Rachel, 1907-1964

(2)準備が整ったら、Web of Science で検索します。

図書館ホームページ Web of Science Web of Science GO CITED REFERENCE SEARCH と進みます。

CITED AUTHOR 欄に CARSON R*、CITED WORK 欄に SILENT SPRING を入力します。

CITED AUTHOR 欄に Rachel Carson と入力すると、ヒットしないことがありますので、なるべく例のように検索することが大切です。

(3)たくさんの引用がヒットします。引用ページが違ったり、版はおなじでも印刷された年が違ったりすると別な引用としてヒットします。

第4回目 1995年より前に書いた論文の引用された回数調べ (13号・2006.2)

徳島大学の Web of Science の契約は 1995 年 1 月分以降です。しかし、1995 年より前に発行された論文の引用が調べられないというわけではありません。

例えば 1980 年にある論文が発行されたとします。この論文は翌年の 1981 年には何件か引用されるでしょう。次の年 1982 年にも引用されるでしょう。そして寿命の長い論文であれば、1995 年、1996 年になっても多くの人に引用されつづけるかもしれません。

ある文献を引用している論文を探す場合は Web of Science のメニューから Cited Reference Search を利用します。この時、文献を第一著者で検索すると、契約年にかかわらず全被引用回数がかかるのです。

例えば、アインシュタインが 1916 年、「ANNALENDER PHYSIK」という雑誌に一般相対性理論を発表しています。この論文を徳島大学内で検索すると、456

件ヒットします。この 456 件は、1995 年以降に引用された回数ではなく、Web of Science の対象年 (1900 年以降に発行された論文) での全被引用回数なのです。ただし引用した論文の情報は、1995 年以降のものしか分かりません。今回、引用した論文を表示させてみると 152 件出てきました。この 152 件が 1995 年以降にアインシュタインの論文を引用した件数ということになります。

Web of Science は 1900 年以降に発行された学術論文を対象としています。その全データを検索しようとするれば、それなりの契約が必要です。高価ですので、各大学は必要に応じて契約しています。最近九州大学が国内の大学で初めて 1900 年以降の全データアクセスを導入しました。ちなみに徳島大学では過去 10 年分のデータになっています。

第5回目 検索式の再利用 (14号・2006.3)

Web of Science の General Search では、TOPIC,AUTHOR などの各項目を指定して論文が検索できます。検索の事例によっては、入力する単語に苦労することがあります。

何度トライしても的確なものがヒットしなくて時間切れになったようなとき、それまでの苦労を保存しておきたいことがあります。このようなときに検索履歴を保存しておくのが save history です。検索しているパソコンのハードディスクに保存するか、Web of Science の

サーバに保存する方法があります。次回、Web of Science を使う時に、保存したものを呼び出すことによって検索の続きが出来ます。

証拠のためにとっておくという使い方もあります。ある検索をしてヒット件数 0 になったときなどは、その証拠として保存しておくといいでしょう。

例えば、次のような検索式を入力すると 0 件になります。入力したキーワードが誤っているのですが、それに気がつかずに、カマキリをロボット工学に応用した論文

が世の中に存在しないと判断してしまったら大変なことになる。

praying munt* and robot*
(正しくは praying mant* and robot*)

save history では、保存した検索式を呼び出すことはできるのですが、その一部を再利用するという使い方はできません。再利用、つまり検索式の一部を利用したいときは、SEARCH HISTORY で呼び出しておいて、表示

される検索式をコピーして、Advanced Search の入力欄にペーストしてから、修正するといいいでしょう。

検索式をそのまま再利用することは簡単です。論文が新しくでたかどうか、時間をおいてもう一度、前回と同じ検索を試みるというような用途には便利でしょう。

せっかく時間をかけた検索です。ぜひ保存しておく習慣をつけましょう。

第6回目(最終回) 見つけた論文の整理 (15号・2006.4)

Web of Science で検索した論文は、パソコンに保存できますが、文献管理ソフトを使うとより便利に利用ができます。Web of Science と同じ Thomson 社の販売している文献管理ソフトに"EndNote"というのがあります。

"EndNote"の文献リストのファイルを Library という単位で保存します。

Web of Science の検索結果マークリストから"EXPORT TO REFERENCE SOFTWARE" ボタンをクリックし、選択した Library に追加しながら文献リストを作成します。

Web of Science の検索結果などから入手した論文の PDF ファイルは、Library から呼び出すことができます。文献リストと全文情報を一緒に管理できるのです。同じ名前で保存するようにすれば、検索の度に自分用の文献リストが貯まっていきます。

Microsoft Word で論文を作成した場合は、参考文献リストを論文の末尾に自動作成してくれます。

文献管理ソフトには、"EndNote"以外にも価格や機能によって数種の製品があります。フリーのものもありますので目的や好みによって選んでみてください。

番外編 (16号・2006.5)

(1) 大量のインパクトファクターを調べる

ジャーナルのインパクトファクターを調べるときは、メニューのひとつである Journal Citation Reports(JCR)を使います。

数点のジャーナルを調べる時はマニュアルやガイドに従って検索していけばいいのですが、数十点以上のジャーナルについてインパクトファクターを調べなければならない時、どうすれば手際よくできるでしょうか。

JCR での誌名による検索はちょっとクセがあります。いつも使っている検索サイト(OPAC など)でそのジャーナルの ISSN(8桁の数字、あるいは4桁 - 4桁の数字)を調べます。対象となっているジャーナルの ISSN を全部調べておいてから、JCR の画面で ISSN を使って検索します。

ISSN という単純なキーを使えば、JCR 独自の検索ルールを意識しなくても、ジャーナルは確実にヒットします。

(2) 問い合わせメールは日本語で

Web of Science の画面は英語です。操作する時や出てきた画面で不明な点があったとき、何を調べますか。ヘルプやチュートリアルも英語でイライラした経験はありませんか。細かいニュアンスのことを知りたくてお困りになったことはありませんか。

ご安心ください。電子メールでの問い合わせは日本語でできますし、回答も日本語です。

Web of Science の各ページの下にある The Thomson Corporation のリンクをたどっていくと、トムソンコーポレーション株式会社(日本法人)のページにたどりつくことができます。

ここには問い合わせ先の電話番号、電子メールのアドレスがあります。



(2) あかりさんの卒論書がなくっちゃ (16号~24号)

< 5月編 >

わたしの名前は野村あかり、総合科学部の4年生です。今回、ゼミで初めて「文献発表」というのをすることになりました。

卒論のテーマに関係する論文を1つ選んでレジュメを作り、皆の前で発表するというのです。端っこに座っていたので、1番目に当てられちゃいました。

トップバッターというのも緊張するのですが、その前に「論文」って何だろう？

本を1冊選んで要約して感想を書けばいいのかな？

何だかよく分からないので、先輩に聞いてみました。

「あかりさん、論文っていうのは本でなくて雑誌に載っているのよ。あかりさんのテーマだったら“社会心理学研究”とか“実験社会心理学研究”とかかな。図書館にあるから新しいのを2、3年くらい見て決めたらいいんじゃない？」

ふーん、そうなんだ。とりあえず図書館に行ってみよう。

...図書館に来てみたのですが、困ったことに気づきました。

今まで本しか借りたことがないので、雑誌がどこにあるかわからないのです。

3階に上がったところに雑誌が並んでいますが、「レタスクラブ」とか趣味の雑誌ばかりで、どう見ても違う感じがします。

2階に戻って、カウンターに座っている男性に聞いてみました。「山本」という名札が見えます。

「どちらも学術雑誌閲覧室にありますよ。あちらの突き当たりの部屋です」

...というわけで生まれて初めて学術雑誌閲覧室に行ってみました。

順番に見ていったらまず「実験社会心理学研究」が見つかりました。それに「社会心理学研究」も。

ばらばらめくってみると、面白そうな論文がいくつか見つかりました。

ああ、よかった。よし、コピーを取って家に持って帰ってどれを発表するか決めよう。

これで発表はできそうだけど、全部で15冊も雑誌を見たことになるのか。関係ない論文もいっぱいあったし、なんだかちょっと疲れたなあ。もっと楽に探せたらいいのに...

図書館カウンター、山本おにいさんの一言

「あかりさんは総合科学部の学生さんなので本館を利用していますが、分館でも雑誌は本とは別に、雑誌閲覧室や書庫に並んでいますよ。一度覗いてみてください」

< 6月編 >

結局、持って帰った中から「説得における感情の役割」という論文を発表することに決め、準備にとりかかりました。がんばったかいあってゼミの発表も無事終わり、先生にも「はじめてにしてはよくできていますね」とほめられました。

ところが、ほっとしたのもつかの間、先生がまたわからない言葉を口にしました。

「あかりさん、今度はこの論文の先行研究を読んで来てくださいね」

せんこうけんきゅう。いったいどうすればいいのか、さっぱり分かりません。

「あのお……」と口ごもっていると、先生が教えてくれました。

「先行研究というのは、その論文より先に書かれた論文のことですね。論文を書くときには、必ず今までに発表された論文を参考にしている、そのことを本文中や論文の最後に書いています。引用文献とか参考文献ともいいですね。関連のある論文ばかり集まっていることになりますから、読むととても参考になりますよ」

ゼミが終わった後で発表した論文を見てみると、最後に「参考文献」と書かれていて、次のような論文リストがありました。

- 1.原奈津子・山本真理子 (1995) 説得における肯定的感情および否定的感情の影響 筑波大学心理学研究, 17, 143-151.
- 2.池上知子 (1997) 社会的判断と感情 海保博之(編) 「温かい認知」の心理学 (pp.99-119) 金子書房
- 3.北村秀哉 ほか (2001) 説得過程におけるムードの効果 感情心理学研究, 2, 49-59.
- 4.DeSteno, D et al. (2004) Discrete emotions and persuasion : The role of emotion-induced expectancies. J Pers Soc Psychol, 86,43-56.
- 5.Handley, I. M., & Lassiter, G. (2002) Mood and information processing : When happy and sad look the same. Motivation & Emotion, 46, 94-101.
- 6.McGuire, W. J. (1985) Attitudes and attitude change. In G. Lindzey & E. Aronson(Eds.), The handbook of social psychology : Vol. 2 Special fields and applications (3rd ed., pp.233-346). New York : Springer-Verlag.

なるほど、これをあたっていけば雑誌を1冊ずつ見ていくより効率がいいような気がするなあ。
どれどれ……

あれ？ これってどうやって探せばいいの？

あかりさんは困ってしまいました。例えば、リスト1番の論文に出てくる「17」って何でしょう。どこからどこまでが本の名前なのでしょう。リストの2番には人名と書名らしきものの組み合わせが2回出てきています。

とりあえず図書館に行くことにしました。またカウンターのの人に聞いてみたらいいや。

<図書館カウンター、山本おにいさんより>

「参考文献を辿ってって論文を集める方法は、“芋づる式” といって、論文を探すときに有効な方法の1つです。でも、あかりさんは参考文献の見方に慣れていないようですので、今回は一緒に探してみましょう」

< 7 月 編 >

図書館にやって来ました。発表の時に雑誌の場所を教えてくれた山本さんがカウンターに座っています。とりあえず聞いてみることにしました。

「ここに載っている論文を読みたいんですけど、どうすればいいですか？」

山本さんはざっと目を通し、

「参考文献ですね。見方はわかりますか？」

「いえ、まったくわかりません」

「じゃあ、簡単に説明しますね。このリストには雑誌の論文と本の論文の両方がのってますから、それぞれ1つずつ見てみましょう」「まず、雑誌の論文ですが、リストの1番のような形でよく出てきますね」

原奈津子・山本真理子 (1995) 説得における肯定的感情および否定的感情の影響 筑波大学心理学研究, 17, 143-151.

「順に論文の著者、出版年、論文名、掲載された雑誌の名前、巻号、掲載ページとなっています。探すときは、掲載された雑誌の名前で検索することになります。本と同じように、ホームページの“学内蔵書検索”から探せますよ」

「これだったら“筑波大学心理学研究”ってことですか」

「そうです。論文名や著者名で検索しても出てこないのので、注意してくださいね」

なるほど。何となく分かったような、でもまだ気になることが。

「この“17”みたいな巻号っていうのは検索するとき入れなくてもいいんですか」

「検索するときには入れないでください。実際にやってみましょう」

山本さんはホームページの“学内蔵書検索”のところに、「筑波大学心理学研究」と入力して検索ボタンをクリックしました。

「検索結果一覧」という画面に、筑波大学心理学研究が出てきました。

ここまでは本を検索するときと同じで、見慣れた画面です。

山本さんが雑誌の名前をクリックすると、「目録情報」という画面が出てきました。本を検索するときはこの画面の「所蔵」というところに書いてある場所とか請求記号をメモして探しに行けばいいんだけど、あれれ？

「所蔵」のところにはこんな風に書いてありました。

所在：本館書庫・雑誌架

所蔵年：1984-2006

所蔵巻号：6-20,22-31+

本の時とちょっと違います。山本さんが説明してくれました。

「雑誌は、本と違って探している巻号が重要になってきます。せっかく雑誌があっても、探している巻号がなかったら意味ないですもんね。だから、“所蔵”のところは図書館においてある巻号とその出版年を書いてあるんです。さっき気にされていた17巻があるかどうかは、ここで確認してください」

「どうやって確認したらいいんですか」

「所蔵巻号の6-20というのは、6巻から20巻までは全部揃っているということです。だから17巻もありますね。次にカンマがきて22-31となっていますので、その間の21巻はぬけているということになります。31の後ろに+がついていますが、これは今後も続けて雑誌が来るということです」

「たくさんあるのに、所蔵年のところは2つしか書いてないのはどうしてですか」

「所蔵年には、最初と最後の出版年だけを書いています。なので6巻が1984年に、31巻が2006年に出版されたということになりますね」

なるほどなるほど。所在は本館書庫・雑誌架だからさっそく行ってみよう。

「分かりました、ありがとうございます」

「では次に本の論文の場合ですね」

そうだった、そっちも教えてもらわないと。

「本の一部を参考文献に載せる場合、リストの2番のような形でよく出てきます」

池上知子 (1997) 社会的判断と感情 海保博之 (編)
「温かい認知」の心理学 (pp.99-119) 金子書房

「順に論文の著者、出版年、論文名、本の著者や編者、本のタイトル、掲載ページ、出版社 となっています。探すときは、本の著者やタイトルで検索することになります。雑誌の時と同じように論文の著者や論文名では出てきません」

「じゃあ“海保博之”とか“『温かい認知』の心理学”とかで検索するってことですか」

「そうですそうです。後はいつものように蔵書検索をしてください」

よーし、これで探し方も分かったし、論文が集められるぞ。恥ずかしがらずにきいてみてよかった。

<図書館カウンター、山本おにいさんより>

あかりさんのように、参考文献の見方がわからなくて苦労する方は多いのではないのでしょうか。こつが分かればぐっと探しやすくなりますよ。次回は今回説明しきれなかったことと、図書館にない論文の手に入れ方を説明します。

<おまけの情報>

徳島大学で卒論をまとめようとしている人たちにグッドニュースです。

簡単な手続きをしていただければ、貸出期間が2週間だったのが30日間に延長されます。

< 8月編 >

図書館にやってきたあかりさん、山本さんの姿を見つけて、紙切れを差し出しました。

「ここに載っている10の資料のうち、6個は見つけたのですが、あと4個がどうしても見つかりません。助けてください。」

「すごいですね。そんなに見つけましたか。優秀です。」

参考文献リストの中には、正式なタイトルを書かずに省略形を書いているものがあります。

見つからなかった例1

齊藤正彰「法律情報検索における検索スキル」法時75巻3号(2003年)

『法時』と書いてあっても、専門外の人には『法律時報』を推測することができません。

見つからなかった例2

Heller, Michael (1998). "The tragedy of anti-commons: Property in the Transition from Marx to markets." HARV.L.REV.621; pp.622-88.

"HARV.L.REV."

これは Harvard Law Review の省略誌名です。省略誌名を OPAC で探すことができる場合がありますが、探せないこともあります。

OPAC で一度検索してみて、見つからなかったら図書館の人に相談してみてください。

見つからなかった例 3

Spiegelberg, W. *ibid.* pp.38-65.

"*ibid.*"

これは誌名ではありません。同書、同論文中にという意味で、リストの前にある資料を指しています。

なお、OPAC 等で徳島大学内に所在が見つからなかったものは、図書館で手配できます。

図書館は、こういう要望のために普段から全世界的なネットワーク構築に努めています。文献入手に必要なコピー

ー代金や郵送料は負担していただきますが、入手の手配は図書館がいたします。

ぜひご相談ください。

< 図書館カウンター、山本おにいさんより >

参考文献リストの資料を探すときは、リストに書いてあるとおりに入力しますが、それでは見つからないものがあります。それは省略誌名であったり、誌名ではなく資料の種類を示す語であったりするためです。

< さらに山本おにいさんより >

10 編のうち 6 編も入手したのは上出来です。よくがんばりました。

夏休み中、図書館は夕方 5 時までです。

始まるのは 8 時 40 分からです。朝の涼しいうちに図書館でがんばりましょう。

< 9 月夏休み編 >

苦しい試験期を乗り越え、あかりさんは実家の岡山に帰省しています。

岡山の商店街を歩いていたら、ぱったり指導教官に出会いました。

「来週の卒論中間発表の準備はできてるかな？」

「……あ。」

すっかり忘れていたあかりさん。

でもせっかくの実家、せっかくのんびり生活。できればまだ普通の生活には戻りたくない…。

そこで岡山大学の大学院に通っている従姉の裕美ねえさんに相談してみました。

「なるほどね…せっかく帰ってきてるのにすぐ徳島に戻るのもねえ。岡大の図書館は他の大学の学生も利用できるはずだから、行ってみたら？ 徳大にはない本も見つかるかもしれないわよ」

調べてみたところ、学生証があれば入れてもらえることがわかりました。

「ありがとう！早速行ってみます」

翌日、あかりさんは岡山大学の附属図書館に行ってみました。

しかし…想像以上に大きな岡大の図書館。

OPAC で検索したりして色々な図書を見てみましたが、卒論に使える資料は見つけれず、家に帰ってきてしまいました。

「裕美ねえさん、岡大の図書館は大きくて、資料がたくさんあってすごいですね」

「まあそれは確かだけどねえ。事前にきちんと調べてからでないと、なかなか自分の研究にあった資料はみつけにくいものよ」

「ちゃんと OPAC で調べたんですけど…」

「OPAC では個々の論文までは検索できないからねえ。論文の検索までしたいなら、文献データベースを使わなきゃ」

「文献データベース？」

「キーワードにあった論文がどんな雑誌に載っているかを調べられるのよ。いろんなものがあるけど、たとえば MAGAZINEPLUS っていうデータベースは、人文社会科学系の国内論文をものすごく広い範囲で検索できるからおすすめよ。私も学部生の頃はぜひいぶんお世話になったわ。でもあれって岡大に所属している人でないと使えないはずだから…」

「私は使えないんですか…」

けれども調べてみると、徳島大学でも MAGAZINEPLUS を使えるということがわかりました。

「残念だけど徳島に戻って MAGAZINEPLUS で検索してみた方がいいみたいね、あかりちゃん？」

「まだ帰りたくないよ～（泣）」

<図書館カウンター、山本おにいさんより>

最近では、たいいていの国立大学はよその大学生に対しても利用を認めています。学生証さえあれば、事前の連絡などをしなくても利用できることが多いですが、大学によって多少の違いはありますので、ホームページなどで確認してから訪問するようにしましょう。

あと、あかりさんのようなことにならないように気をつけて(笑)

<さらに山本おにいさんより>

図書館ホームページから、色々な文献データベースにアクセスできます。10月24日(火)12:10~12:40にMAGAZINEPLUSの講習会を予定していますので、慣れやコツ獲得のためにぜひ参加してください。

<10月、さあ後期がんばるぞ編>

後期が始まり、今日もあかりさんは図書館に来ています。

「卒論に説得力がないって先生に言われちゃった……この間教えてもらった『MAGAZINEPLUS』でもっと文献を調べてみようっと」

図書館ホームページを開いて、TOPにある

「MAGAZINEPLUS」の文字をクリック。

「…あれ？」

---同時にアクセスできる人数を超えています---

カウンターにいる職員の人に聞いてみると、学内の誰かが使っていると同時には使えないことがわかりました。

「そうなんだ…じゃあまた今度試してみます」

「あ、ちょっと待ってください。代わりとってはなん

ですが、こんなデータベースもあるんですよ？」

紹介してくれたのは GeNii(ジーニイ)というデータベース。

なんと MAGAZINEPLUS と同様に論文を検索できるほか、全国の大学図書館にある本や博士論文まで検索できるそうです。

「なんて便利な……これさえあればもう MAGAZINEPLUS なんていらんわ!!」

「それは言い過ぎですよ(汗)。それぞれ結果に出てくるものと出てこないものがありますから、両方でそれぞれ検索してみると确实だと思いますよ」

「なるほど。じゃあ今度 MAGAZINEPLUS でも検索してみます。ありがとうございました！」

<図書館カウンター、山本おにいさんより>

同じようなデータベースなのですが、片方だけ使うというのではなく、両方を手際よく使ってみてください。

「徳島市」「都市交通」というふたつのキーワードで両方のデータベースを検索したところ、MAGAZINEPLUS は何もヒットせず、GeNii では次の1件がヒットしました。

都市の特徴を生かした交通政策の提案と効果分析 - 徳島市を事例として - 近藤 光男;廣瀬 義伸;加藤 均;岸本 紘典 都市計画. 別冊, 都市計画論文集 = City planning review. Special issue, Papers on city planning 34 913-918 19991015 09131280

キーワードを工夫して「徳島市」「都市」「交通」の3つにして検索したところ、MAZAZINEPLUS では次の3件がヒットしました。

- 1 徳島市周辺の渋滞状況とロードプライシングによる

交通渋滞マネジメント(TDM)施策の研究(特集クルマ社会と都市住宅 各地における自動車交通抑制への検討と対策の事例) 都市住宅学 1999.12

- 2 都市の特徴を生かした交通政策の提案と効果分析 徳島市を事例として 都市計画論文集 1999

- 3 四国の玄関を目指す徳島市(西日本レポート) 調査月報 IRC 1994.6

一方 GeNii では次の2件がヒットしました。

1. 徳島市周辺の渋滞状況とロードプライシングによる交通渋滞マネジメント(TDM)施策の研究 加藤,均;近藤,光男 都市住宅学 30~36 1999/12 13418157

2. 都市の特徴を生かした交通政策の提案と効果分析 - 徳島市を事例として - 近藤 光男;廣瀬 義伸;加藤 均;岸本 紘典 都市計画. 別冊, 都市計画論文集 = City planning review. Special issue, Papers on city planning 34 913-918 19991015 09131280

片方でしかヒットしないものもありますし、キーワードの選定によって結果が違ったりします。

< 11 月編 >

最近では文献検索にも慣れ、たくさんの論文を読んでいるあかりさん。先生にもよくがんばっていると誉められました。ところが今日のゼミの時間に先生がこんなことを言いました。

「このテーマは今年の春頃によく報道で取り上げられていたね。過去の新聞記事を読んではみたらどうか？」

「新聞記事……??」

あかりさんはとりあえず図書館3階の新聞コーナーにやってきました。

「あれ？今月の新聞しかない。図書館にある新聞ってこれだけなのかな？」

あかりさんはカウンターで聞いてみることにしました。

「新聞は今月の分しかないんですか？」

「いいえ、過去の分は書庫にありますよ。何月頃の新聞をお探しですか？」

「このテーマについて書いてある記事が読みたいんですけど、どこに掲載されているか分からなくて。」

「そういう時に役立つデータベースがありますよ！『聞蔵Ⅴ(きくぞう)』という新聞記事検索データベースです。1945年以降の朝日新聞等にどのような記事が掲載されたか調べることができるんです。しかも調べた記事の大部分はその場で本文が読めるから便利です。」

「ええ～知らなかった！すごく便利。さっそく使ってみます」

< 図書館カウンター、山本おにいさんより >

図書館の書庫にはそれぞれ過去1年分の新聞が保存してあります。徳島新聞については過去5年分を保存していますので、活用してください。

< 蔵本図書館カウンター、佐藤おじさんより >

蔵本分館も過去1年分の新聞を1階資料室に保存しています。利用される際はカウンターに申し出てください。

< 12 月編 >

以前は先生に説得力がないと指摘されていたあかりさんの卒論でしたが、近ごろは論文や新聞記事から得た情報をうまくまとめていると評価されています。

今日は自宅で参考文献をまとめていたあかりさん。こんなことに気づきました。

「あれ？ここ、論文の巻号書き忘れちゃってる。確かこれって『MAGAZINEPLUS』で見つけた論文だよな」

あかりさんは翌日大学で『MAGAZINEPLUS』から論文の情報を検索することにしました。しかし、不安なこともひとつ。『MAGAZINEPLUS』は学内からしかアクセスできないはず。冬休み中は岡山に帰省する予定です。文献の情報を調べたくなったときはどうすればいいのでしょうか。

次の日、そんな疑問を解消すべくあかりさんは図書館カウンターにやってきました。

「学外からでも調べられる論文のデータベースはありますか？」

「ありますよ！『CiNii(サイニイ)』という論文のデータベースです。

『MAGAZINEPLUS』と同じように論文を探すことができるんですよ」

「……『CiNii(サイニイ)』？『GeNii(ジーニイ)』なら使ったことがあるけど……」

「ではご説明しましょう」

実はこの「CiNii(サイニイ)」、以前図書館で紹介してもらった「GeNii(ジーニイ)」に含まれているデータベース。両データベースとも、図書館ホームページにあるリンク集からアクセスできるそうです。

「これで冬休み中も文献情報が調べられそう！」

「ただし、データベースが違くと、論文によっては『MAGAZINEPLUS』で検索できても、『CiNii(サイニイ)』で見つからないこともありますし、その逆もあります。『MAGAZINEPLUS』は冬休みまでに確認しておいた方がいいと思いますよ」

「わかりました！ありがとうございます！」

「近々データベースの講習会があるんです。ぜひ参加してください」

< 図書館カウンター、山本おにいさんより >

レポートや卒論に役立つ資料を探すための講習会を開催します。ちょうりゅう(トピックス)の案内記事を見てみてください。

<最終回>

わたしの名前は野村あかり、総合科学部の4年生です。たった今、卒論の最終チェックを終えてプリントアウトしました。

今の時間は14時。提出期限の17時まで少し時間があるし、指導の先生からは昨日見てもらった時にOKをいただいているので、製本してから先生のところに持っていくことにしました。

製本機のある事務室に向かい、製本。1ミリのずれもない……我ながら完璧な出来栄に、顔がにやけてきます。笑顔いっぱいのまま、先生のところに行って製本した卒論を提出しました。

「よし、お疲れ様。……って野村さん、笑いすぎ。ちょっと気持ち悪いよ」

普段なら心に刺さるような先生の冷たい一言も気になりません。

1月31日17時。ついさっきまで「提出期限」としてプレッシャーになっていた時間が、今はなんだか待ち遠しくさえあるような気分です。

2月10日の卒論発表会に向けて、卒論の抄録（要約）やパワーポイントのスライドも仕上げないといけない

のですが……明日がんばろう。

なんてたって、私はもう卒論を提出したんだから。

思い返せば卒論提出まで、いろんなことを学びました。参考文献リストの見方、OPACの詳しい使い方、論文や新聞の検索方法。連載中には出てこなかったけど、アンケートを作ったり実施したり、統計で結果がでなかったりで色々苦勞もしてきました。

でもなんとかあった……今はお世話になった人たちにお礼を言いたい気分です。

先生、友達、裕美ねえさん、図書館の人。

本当に、ありがとうございました。

<図書館カウンター、山本おにいさんより>

卒論提出お疲れ様でした。

野村あかりさんの所属している心理講座では先生に提出したようですが、提出期限や提出場所、提出形式は学部や講座によって異なります。卒論を提出される方は、自分の所属する講座の卒論提出について、くれぐれもきちんと確認しておきましょう。

(3) Hotな棚、見てある記(15号~20号)

図書館の棚には無機質に本が並んでいるように見えるかもしれませんが、わくわくするような楽しいスポットがあります。

第1回目 男の器量：ビジネスマンのための教訓(15号・2006.4)

図書館では人生訓、教訓は159に分類します。特にビジネスマン、経営者のための教訓は159.4の棚にあります。

この分類の前後に心理学や宗教学の本がありますので、このコーナーはちょっと異質な光景です。その意味では秘境スポットと言えるかもしれません。

ここだけは気軽に読める本が並んでいますので、一度是非お立ち寄り下さい。

1. 21世紀の成功心理学. 青木仁志著. アチーブメント

株式会社/出版部/ 星雲社(発売), 1999.

2. 「アリ」が笑うとき「キリギリス」が笑うとき : 21世紀の人生設計. 大滝令嗣著. 扶桑社, 2001.

3. 男の器量. 童門冬二著. 三笠書房, 2000.

4. 構想力のための11章 : 新しい発想を生み出す方法. 水野博之著. 三五館, 2001.

5. 仕事ができる人できない人. 堀場雅夫著. 三笠書房, 2000.

6. 自分の力を 120%引き出すメンタルトレーニング. 高畑好秀著. 日本実業出版社, 2002.
7. なりたい自分になる技術 : あなたを成功に導くセルフリーダーシップ. チャールズ・C・マンツ, クリストファー・P・ネック著/宍戸由希子訳. 生産性出版, 1999.
8. ニコマコス流頭脳ビジネス学. 大平健著. 岩波書店, 2001.
9. ハーバードからの贈り物. デイジー・ウェイドマン著/幾島幸子翻訳. ランダムハウス講談社,

2004(Harvard business school press).

10. フィッシュ!おかわり : オフィスをもっとびちびちにする 3 つの秘訣. スティーヴン・C.ランディン, ジョン・クリステンセン, ハリー・ポール著/青山陽子訳. 早川書房, 2003.
11. 物の見方考え方. 松下幸之助著. 実業之日本社, 2001.
12. 理念なくして戦略なし : 戦略家西郷隆盛と孫子. 田村文重著. 芙蓉書房出版, 2004.

第2回目 クレオパトラのとなりに『ご冗談でしょうファインマンさん』(16号・2006.5)

図書館の人気ジャンルである伝記(個人の一生を描いた)ものは、対象となっている人の分野に関係なく 289 という分類番号に集めています。

自然科学者の個人伝記、例えばガリレオの伝記は自然科学関係の書架ではなく、本館で言えば、人文・社会科学系の図書を置いている 3 階にあります。

ただし文学者の伝記は文学のところに分類することになっていますが、必ずしもそうとは限りません。ややこしいので、とにかく一度 289 の書棚の前に立ってみてください。

本館の 3 階は、わずか 17 棚ですが、本館の書庫であれば 135 棚分もあります。戦国大名も現代の芸能人も平等に人名の ABC 順に並んでいます。

ぜひ、一度お立ちよりください。

図書館の本は主題でグルーピングします。ひとつの主題の中では著者ごとに集めます。

しかしこの個人伝記の場合は伝記を書いた著者ではなく、伝記の対象になった人の名前を集めるようにしています。

第3回目 コンピュータ関係の本はひとつ場所にあらず (17号・2006.6)

情報科学およびシステムに関するものは 007

工学的な取扱いに関するものは 548

コンピュータやインターネットに関する図書の置き場所は、おおまかに言って 2 個所に別れています。原則は情報科学およびシステムに関するものは 007、工学的な取扱いに関するものは 548 ですが、この区別は一般的にはわかりにくいものです。

両方の棚の前に立ってみましょう。

同じように「統計」も別れています。350 と 417 の 2 個所にあります。

自分の探している図書がどちらに分類されているか蔵書検索などによって確かめるのもいい方法です。しかし漠然と探すときなどは両方の場所に行ってみることも大切です。

一般的に図書館では主題ごとに置く場所を決めています。しかし、探している人の考える分類体系と図書を整理する人の頭の中が同じとは限りません。

目の前の書架にコンピュータに関する図書が並んでいたとしても、それとはまったく違う場所(分類)にコンピュータの本があるかもしれないということを絶えず疑ってみてください。



第4回目 スポーツ関係は映画のとなり (18号・2006.7)

阪神タイガースは今年も活躍中でよろこばしい限りです。徳島には阪神ファンが多いようです。

ところでスポーツ関係の図書は、図書館のどこにあるのでしょうか。歴史や社会科学ではありません。自然科学や産業・工業とも違います。実は「芸術」に分類されています。

野球関係に限っても以下のような図書が徳大図書館にあります。

ぜひ一度足をお運びください。

1. イチローに学ぶ「天才」と言われる人間の共通点。児玉光雄著。河出書房新社, 2001.
2. 一勝二敗の勝者論。関根潤三著。佼成出版社, 1990.
2. 輝けるアメリカ野球：球史を飾る男たちのドラマ。ロジャー・カーン著/池井優訳。講談社, 1978.
3. 高校野球の社会学：甲子園を読む。江刺正吾, 小椋博編。世界思想社, 1994(Sekaishiso seminar).

4. 三流。長嶋一茂著。幻冬舎, 2001.

5. それゆけネッピー!：プロ野球マスコットにかけたゆめ。花木聡作/西村緋祿司絵。くもん出版, 1997(おはなしノンフィクション:7).

6. 誰もわかつちやいない!!：江本孟紀の超論プロ野球。江本孟紀〔著〕。藝神出版社, 1996.

7. プロ野球の経営学：個人と組織を100倍面白くする。北矢行男著。東洋経済新報社, 1992(21世紀ビジネス).

8. 星野仙一勝ちたいんやツ：「七つの顔を持つ男」はこうしてダメ虎を甦らせた。大下英治著。徳間書店, 2003.

9. 野球食。海老久美子著。ベースボール・マガジン社, 2001.

第5回目 文学関係はあちこちにならぶ (19号・2006.8)

図書のカバーには次のような表示があります。

ISBN4-7664-0724-8 C2000 ¥1800E

2番目の項目が日本図書コードと呼ばれるもので、ここに分類が書いてあります。書店はこの分類コードを利用して店内に並べているのだと思われます。大学図書館で使われている日本十進分類法よりはるかに簡単な分類表です。

日本十進分類法は、特定状況下での利用に対して詳しく分類をしてしまうことがあります。家畜学関係の蔵書が数百冊しかないような図書館で家畜学に関する厳密な分類を図書に与えることは無用の混乱を招くかもしれません。

文学関係の分類では、小説類と随筆類を分けて分類するのですが、これが混乱を招くことがあります。同一作家であっても作品の置き場所が大きく離れてしまうのです。

田辺聖子の作品を例に挙げます。

欲しがりません勝つまでは：私の終戦まで ポプラ社, 1977.4 【159 人生訓】

大阪弁ちゃらんぼらん 筑摩書房, 1978.6 【818.63 日本語方言】

愛してよろしいですか? 集英社, 1979.4 【913.6 小説】

ああかモカのおっちゃん 文芸春秋, 1977.2 【914.6 随筆】

おくのほそ道 講談社, 1989.9 【915.6 紀行】

例えば、小説の棚で田辺聖子の本を数冊見つけたとしても、他に随筆や紀行の棚にも田辺聖子の本があるかもしれないということを覚えておいてください。

書架の前に立って本を探すのは、手軽で、一覧できるという意味では重宝なのですが、限界があるということです。

必ず学内蔵書検索(OPAC)を使って必要なものを確認するクセをつけてください。

第6回目 地元徳島の資料 (20号・2006.9)

図書館が使っている分類は日本十進分類法という全国共通の分類表です。

原子物理学はほとんどの図書館で 429 に分類されています。これは大変便利なことです。

日本各地の郷土資料については、北海道から地理的順番にあわせて分類されています。

- 211 北海道
- 212 東北地方
- 213 関東地方
- 214 北陸地方
- ...

ちなみに徳島県は 218.1 に分類されます

日本各地にある図書館はどうしても固有の特徴、事情を持っています。

共通の番号だけでは処理しきれないものが出てきます。そのような時、共通ではないもの、その図書館に固有のものがあつた場合は、090～099 を使うことになっています。

一般的には郷土資料をこの番号にあてることが多いようです。

徳島大学附属図書館では徳島県の資料は郷土資料として 09* に分類されていたり、全国共通の番号を使って 218.1 に分類されていたりします。

利用するときにはどう区別するのか理解しがたい側面がありますので、どちらもチェックしてみるようにしてください。

090 に分類されている例

1. 徳島の地名と民俗. 萩沢明雄著. 南海ブックス, 1977(阿波文庫:1).
2. 地質. 岩崎正夫, 中川衷三編. 徳島市中央公民館, 1981(徳島市民双書:13, 15, 徳島の自然).
3. 徳島のモラエス. 徳島のモラエス編集委員会編. 徳島市中央公民館, 1972(徳島市民双書:5).

092 に分類されている例

1. 絵で見る徳島の百年 : 第 3 回阿波庶民生活展. 飯原

一夫絵. 徳島史学会, 1968.

2. 徳島城. 徳島県立博物館, 1998(徳島の自然と歴史ガイド:no.1).

3. 徳島大空襲. 徳島県立博物館, 2005(徳島の自然と歴史ガイド:no.4).

4. 徳島の昭和二百人. 東四国新聞社, 1983.

5. 徳島の女性先覚者展図録. 徳島県博物館編. 徳島県博物館, 1983.

093 に分類されている例

1. 聞き書徳島の食事. 「日本の食生活全集徳島」編集委員会編. 農山漁村文化協会, 1990(日本の食生活全集:36).

2. 徳島の子どもたち : 徳島子ども白書. 丸山尚子[ほか]著. 教育出版センター, 1977.

3. 徳島の社会教育 : 10 年の歩みと現状. 徳島県教育委員会社会教育課 [編]. 徳島県教育委員会, 1959.

4. 徳島の青少年. 徳島県企画調整部青少年婦人室編. 徳島県青少年対策本部, 1989.

5. 徳島の方言. 高田豊輝著. 高田豊輝, 1985.

096 に分類されている例

1. グラフで見る徳島の農林水産業. 徳島農林統計協会編. 徳島県農林企画課, 1985.

2. 新鮮王国徳島の鳴門わかめ : 西日本一の産地から. 中国四国農政局徳島統計情報事務所, 2003.

3. 徳島の庭園. 福原健生著. 出版, 1961.

4. 阿波藍沿革史. 西野嘉右衛門著. 思文閣, 1971.

5. グラフで見る徳島の農林水産業. 徳島農林統計協会編. 徳島県農林企画課, 1985.

218.1 に分類されている例

1. 阿州徳島藩御家中録. 宮本武史編著. 宮本武史, 1965.

2. 阿南市史. 阿南市史編さん委員会編. 阿南市教育委員会事務局, 1987.

3. 阿府志/阿淡御祭目. 徳島県史編さん委員会[編]. 徳島県, 1967(徳島県史料:第 2 巻).

4. 阿波一宮城. 「阿波一宮城」編集委員会編. 徳島市立図書館, 1993(徳島市民双書:27).

5. 徳島藩の史的構造. 三好昭一郎編. 名著出版, 1975(地方史研究叢書:5).

メールマガジン掲載記事一覧

創刊号 (2005/02/17)

- ・メールマガジン「すだち」創刊について
- ・創刊にあたって「徳島大学学長 青野敏博」
- ・電子ジャーナル等の整備状況について
- ・ちょうりゅう（お知らせ）
 - ・本館の廊下・階段に「手摺り」を設置
 - ・サイフ等の盗難が発生！！
 - ・蔵本分館臨時休館のお知らせについて
 - ・蔵本分館 3月金曜日の時間外特別利用について



(本館・カウンター、マルチメディアプラザ)

2号 (2005/03/17)

- ・附属図書館からのメッセージ
- ・卒業する学生の方々からのメッセージ
- ・平成 17 年度開館時間およびカレンダー
- ・平成 17 年度図書館ガイダンスの予定
- ・ちょうりゅう（トピックス）
 - ・新館長が就任予定
 - ・3/31 で徳島大学を去られる教職員の皆様へ
 - ・Web of Science トライアルのお知らせ
 - ・本館建物窓に看板表示



- ・サービスカウンター担当者が交替しました
- ・館内の盗難に注意！！
- ・無料学術論文検索「Google Scholar」について
- ・本学教員寄贈図書
- ・試験期入館状況

- ・今年度から始めたサービス
- ・平成 17 年度事業計画
- ・Web of Science または Scopus の導入
- ・ちょうりゅう（トピックス）
 - ・ホームページのリニューアル
 - ・学外の利用者への貸出冊数を増やしました
 - ・カードサイズの開館時間カレンダーを作りました



- ・附属図書館学術講演会を開催



(2005.02.09 本館大視聴覚室)

3号 (2005/04/19)

- ・図書館紹介（新入生のみなさんへ）



- ・図書館で地震に遭ったら
- ・新入生歓迎の看板を設置



(左・本館、右・分館玄関前)

- ・館内サインの変更



- ・蔵本分館で消防訓練を実施
- ・蔵本分館の施設整備
- ・平成 16 年度統計

4号 (2005/05/20)

- ・本学附属図書館の現状と課題
 - 附属図書館長 細井和雄
- ・生活実態調査にみる図書館利用
- ・交流の広場 ---- 「交流の広場」の新設について
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・県内図書館の「蔵書横断検索システム」
: 徳島県立図書館(紹介)
 - ・データベースで、あなたも情報探しの達人
 - ・書架に並ぶ赤丸シールの正体は?



- ・メール掲示板:「インターネットの夜明け」配信
- ・登録メールアドレス(個人情報)について

5号 (2005/06/17)

- ・「Web of Science」(学術情報データベース)の導入が決定
- ・本学教職員の方へ著作図書の寄贈のお願い
- ・本館・分館間の図書デリバリーサービスについて
- ・マナーアップキャンペーン
- ・交流の広場
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・OPAC 検索で見つからない資料
 - ・2006 年度雑誌購読調査の実施
 - ・図書館案内ツアー等各種ガイダンス実施報告
- ・分類に困った本の行方
- ・徳島大学における電子ジャーナルの利用統計 2004
- ・記事訂正について

6号 (2005/07/19)

- ・山西家文書の寄贈受入について
- ・Scopus が利用できます
- ・交流の広場
- ・どちらの館でも返却できます
- ・図書館のパソコン台数は十分か?
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・夏の試験期、図書館が応援します
 - ・PubMed 講習会(個別開催)のお知らせ
 - ・平成 17 年度附属図書館年次報告の刊行
 - ・新分館長が就任予定
 - ・オープンキャンパスへの対応
 - ・マナーアップ・キャンペーン(6月)が終了

7号 (2005/08/19)

- ・新分館長より就任の挨拶
- ・交流の広場
- ・大学図書館実態調査にみる徳島大学附属図書館
- ・図書館情報学実習(寄稿)



- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・徳島大学オープンキャンパスが行われました
 - ・学内蔵書検索(OPAC)における所在場所表示の変更について
- ・メール掲示板:「四国伊能大図展」に本館所蔵資料を展示

8号 (2005/09/16)

- ・Web of Science のサービス開始
- ・交流の広場
- ・D1-Law.com 第一法規法情報総合データベースが利用できます
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・教員著作コーナーを移設しました



- ・公費用複写機
- ・消防訓練を実施しました
- ・「論文の書き方」の本を図書館で探す
- ・本学教員寄贈図書

9号 (2005/10/18)

- ・「学術機関リポジトリ」?
- ・交流の広場
- ・徳大図書館のキャラクターを募集します
：秋の読書週間行事
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・『蜂須賀家臣成立書並系図』のプリントアウトを公開



(本館・2階開架閲覧室)

- ・データベーストライアルのお知らせ
- ・データベース操作方法講習会を実施します
- ・本館・分館玄関の灰皿を撤去しました
- ・『ナースのための英会話』を図書館で探す
- ・統計：本館貸出数ベスト10

10号 (2005/11/22)

- ・徳大図書館のキャラクター決定



(本館・館長室)



- ・交流の広場
- ・短期連載：WoS にウォッス(1)
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・ファインディングシートの配布を始めました
 - ・「図書館資料の探し方」講習会(本館)を開催します
 - ・文献検索マニュアル(徳島大学版)
～ただ今 製作中!～
- ・Google もいいけれど、専門辞典もなかなか
- ・統計：蔵本分館貸出数ベスト10

11号 (2005/12/20)

- ・学術情報資源の安定確保に関する声明を発表
(国立大学図書館協会)
- ・交流の広場
- ・短期連載：WoS にウォッス(2)
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・平成17年度図書館概要を発行
 - ・「みなさまの声」アンケート実施中
 - ・冬休みに伴い貸出期間を延長します
 - ・電子ジャーナルのリストが使いやすくなりました
 - ・パソコンで日経パソコン等の記事が読めます
<無料トライアル実施中>
 - ・第2回蔵本分館運営委員会
 - ・マナーアップキャンペーン(12月)実施中
- ・図書館キャラクター「のほほんくん」作者より
- ・統計：地域社会への貢献度：附属図書館の場合

12号 (2006/01/20)

- ・「みなさまの声」アンケートの結果
- ・短期連載：WoS にウォッス(3)
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・学術講演会開催のご案内(2月16日開催)
 - ・本館に新着図書コーナー



- ・本館で空調設備工事開始
- ・図書館運営委員会が開催される
- ・検索語を考えない図書検索
- ・蔵本分館のカメが冬眠

13号 (2006/02/23)

- ・電子ジャーナルの購読、現状規模が維持されます!
- ・「みなさまの声」アンケートの結果(2)
- ・短期連載：WoS にウォッス(4)
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・学術講演会開催結果(2月16日開催)



(本館・大視聴覚室)



(本館・特殊資料室)

- ・図書館内に絵画の展示



- ・図書を返却しないと卒業できません!?
- ・教養雑誌購読希望アンケート結果発表

14号 (2006/03/28)

- ・徳島御城下絵図を高精細画像で
- ・卒業する学生の方々から
- ・短期連載：WoSにウォッス(5)
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・開館時間を拡大、徳大図書館がより使いやすく
 - ・図書館のことを知ろう！
 - 4月からの図書館ガイダンスご案内
 - ・朝日新聞オンライン記事検索がより便利に
 - ・『人物レファレンス事典 日本/外国』のお試しをどうぞ
 - ・3月31日で徳島大学を去られる教職員の皆様へ
 - ・サービスカウンターの新しい顔
- ・徳島大学附属図書館の事例が採用
(国会図書館レファレンス共同データベース事業)
- ・さくらんぼの花が咲きました



- ・統計：後期試験期入館状況

15号 (2006/04/17)

- ・新入生のみなさんへ
- ・新連載：Hotな棚、見てある記(1)
- ・短期連載：WoSにウォッス(6・最終回)
- ・平成18年度事業計画
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・開館時刻8時40分、好評スタート
 - ・カードサイズの開館時間カレンダー、ただいま配布中
- ・図書館窓口の組織を変更しました
- ・平成17年度サービス関係統計速報値

16号 (2006/05/19)

- ・あかりさんの卒論書がなくっちゃ<5月編>
- ・連載：Hotな棚、見てある記(2)
- ・短期連載：WoSにウォッス(番外)
- ・利用者懇談会「館長と語ろう」
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・「みなさまの声」アンケート実施中
 - ・日経BP社の雑誌がパソコンで読めます
 - ・蔵本分館周辺の駐輪場新設



- ・本館前の道路がきれいに(4月)



- ・本学教員寄贈図書

17号 (2006/06/21)

- ・蔵書検索用データの入力率70%達成
- ・あかりさんの卒論書がなくっちゃ<6月編>
- ・連載：Hotな棚、見てある記(3)
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・「はじめての電子ジャーナル」講習会を開催します
 - ・Web of Science/JCRの講習会を開催します
 - ・新聞の折り込み広告(6月～)
 - ・貸出用の化学大辞典(6月～)
 - ・マナーアップ・キャンペーン(6月)を行いました

18号(2006/07/24)

- ・のほほんくんより暑中お見舞い申し上げます
- ・交流の広場
- ・あかりさんの卒論書がなくっちゃ<7月編>
- ・連載: Hot な棚、見てある記(4)
- ・図書館のコンピュータシステムを新しくします
-part1-
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・卒業研究生のための特例貸出しを実施します
 - ・OPAC に機能追加でより使いやすく!
 - ・分館でもグループ学習ができます



(分館・視聴覚室)

- ・本館グループ研究室を改装します
- ・図書の照合点検を行います
- ・図書館利用者懇談会「館長と語ろう」を開催しました



(本館・会議室)

- ・6月期講習会結果報告
- ・本館分館間図書デリバリーが1年間で560冊の実績
- ・学内蔵書検索(OPAC)における分類検索について
- ・夏休み(本館 8/3 ~ 9/29・分館 8/1 ~ 8/31)の徳大図書館

19号(2006/08/24)

- ・あかりさんの卒論書がなくっちゃ<8月編>
- ・連載: Hot な棚、見てある記(5)
- ・図書館のコンピュータシステムを新しくします
-part2-
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・蔵本分館の貸出期間を長くします
 - ・徳島大学オープンキャンパスが行われました



- ・本館2階カウンター前にAED(自動体外式除細動器)を設置しました



- ・平成17年度附属図書館年次報告書
- ・阿波踊り「徳島大学連」に附属図書館職員が参加
- ・蔵本分館でカクレミノが満開



20号(2006/09/20)

- ・交流の広場
- ・あかりさんの卒論書がなくっちゃ<9月夏休み編>
- ・連載: Hot な棚、見てある記(6)(最終回)
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・特別展「阿波・淡路の国絵図と五街道」のご案内



(ガレリア新蔵)

- ・学術講演会開催のご案内(10月11日開催)
- ・図書館で消防訓練実施



- ・グループ研究室リニューアルオープン！（本館）
- ・分館の自動貸出装置が新しくなりました



- ・論文の到着情報を受け取っていますか
- ・附属図書館1階玄関周辺で映画「眉山」の撮影



(本館・大視聴覚室)



(ガレリア新蔵)

21号(2006/10/24)

- ・今年 of 読書週間行事
のほほんクンしおりプレゼント



- ・最少の時間で的確に文献入手！
- ・あかりさんの卒論書がなくっちゃ
＜10月、さあ後期がんばるぞ編＞
- ・図書館のコンピュータシステムを新しくします
-part3-
- ・交流の広場
- ・ちょうりゅう（トピックス）
・ 学術講演会開催結果（10月11日開催）

- ・「SciFinder Scholar」講習会を開催します
- ・本文中の単語を検索できます、書籍の内容が取り込めます
- ・蔵本分館の禁煙措置拡大
- ・職員の名札に図書館キャラクター



- ・論文や図書の引用情報はOPACやデータベースで確認できます
- ・徳大生、5ヶ月間の図書貸出16冊以上が300人越す

22号(2006/11/22)

- ・先生方のための図書館利用法(第1回)
- ・あかりさんの卒論書がなくっちゃ＜11月編＞
- ・図書館のコンピュータシステムを新しくします
-part4-
- ・論文リンクツールはお試しいただけましたか？
- ・ちょうりゅう（トピックス）
・ 附属図書館本館が臨時休館します

- ・平成 18 年度図書館概要を発行
- ・のほほんクンしおりをプレゼントしました
- ・SciFinder Scholar 講習会(11/14)結果報告
- ・「天声人語」の英訳を次の日に読む

23号(2006/12/15)

- ・あかりさんの卒論書がなくっちゃ<12月編>
- ・先生方のための図書館利用法(第2回)
- ・図書館のコンピュータシステムを新しくします
-part5-
- ・交流の広場
- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・「レポート・卒論に役立つ資料の探し方」講習会を開催します
 - ・原子力科学技術関連の文献検索が可能となりました
 - ・マナーアップキャンペーン(12月)実施中
- ・貸出のCDが傷んでいたらお知らせください
- ・クリスマスツリー点灯



(分館)

24号(2007/01/22)

- ・あかりさんの卒論書がなくっちゃ<最終回>
- ・先生方のための図書館利用法(第3回)
- ・アンケート実施中
- ・図書館のコンピュータシステムを新しくします
-part6-
- ・交流の広場
- ・新連載：図書館のモノ・もの(No.1, No.2)



- ・ちょうりゅう(トピックス)
 - ・化学、医学/ライフサイエンス関連の電子ブックが利用できます
 - ・卒業研究生のための特例貸出し取扱期間を延長しました
 - ・「レポート・卒論に役立つ資料の探し方」講習会結果報告



(総合科学部3号館)

- ・図書館利用者懇談会を実施しました



(本館・会議室)

- ・簡単に文献リストが作れる EndNote Web
- ・私の3冊が1割
- ・スイセンの花が咲きました



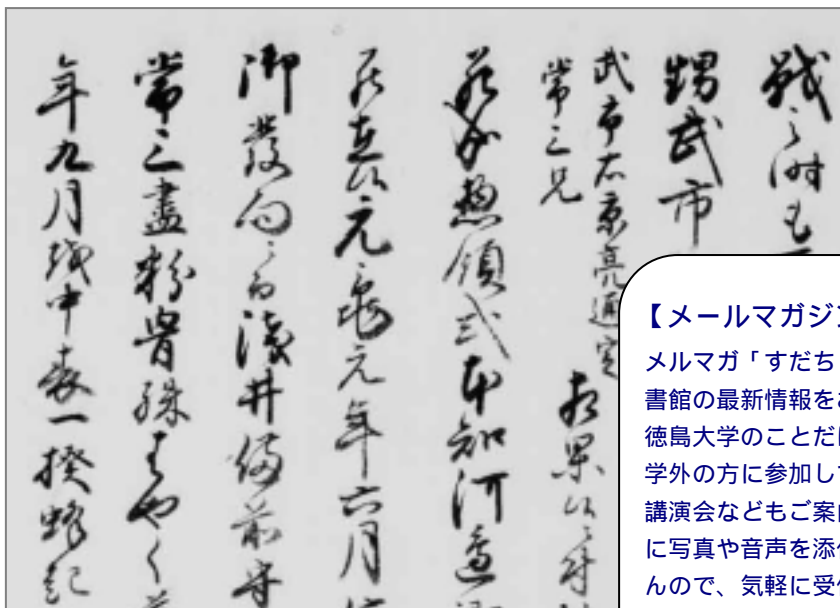
- ・編集後記



法人化後における附属図書館に関する事業等

事業等	平成16年度	平成17年度	平成18年度
施設・設備の整備	1)本館廊下・階段に身障者用の手摺り設置(H16.12) 2)本館書庫における資料の再配置・照明の増設及び分館書庫資料の再配置(H17.3) 3)本館東側外壁修繕工事(H17.3) 4)分館冷暖房機器更新(H17.3) 5)分館情報検索用パソコン2台更新(H16.10)	1)本館積層書庫内の照明(自動センサー付)増設(H17.12) 2)本館参考資料の再配置及び分館書庫資料の再配置(H18.3) 3)本館1階事務室の節減対策で電灯回路変更(H18.3) 4)本館(2・3階閲覧室他)・分館(雑誌閲覧室)冷暖房機器更新(H18.3) 5)分館に入館センサー設置(H18.3) 6)分館閲覧室・書庫の電灯回路を節減対策でタイマー式に変更(H18.3) 7)ガイダンス及び文献検索用に本館にパソコン2台、分館にパソコン5台増設(H18.3)	1)本館・分館書庫資料の再配置(H18.4~H19.3) 2)本館新館南側補修工事(H18.6)、外壁工事(H19.3) 3)本館グループ研究室改装(H18.8) 4)分館自動貸出返却装置更新(H18.8) 5)分館ブックディテクションシステム修理(H18.7)、更新(H19.2) 6)本館冷暖房機器の更新(1階,2階事務室及び2階南側)(H19.3) 7)分館無人開館設備の整備(自動監視カメラ)(H19.3) 8)図書館システム更新(H19.3) 文献検索用等パソコンに36台増設 借料:学内共通経費化
資料の整備	1)「学術雑誌の整備方策について」を策定(H16.10) 2)図書館資産台帳と現品の実査(H16.8)	1)Web of Science導入(H17.10) 2)電子ジャーナル経費が18年度から学内共通経費化として承認(H18.1) コンソーシアム参加の不足分(1,185万円)が追加配分決定 3)図書館資産台帳と現品の実査(H17.8)	1)電子ジャーナル経費不足分(1,952.2万円)が追加配分決定(H19.1) 2)図書館資産台帳と現品の実査(H18.8)
利用者へのサービス	(1)開館日・開館時間 1)試験期間中の祝日開館実施 2)分館時間外特別利用設備を学部学生まで適用(試行)(H16.6) (2)本館・分館間のデリバリーサービス 1)私費複写サービスの配送サービス実施(H16.4) (3)館内外のサイン更新 1)本館1階玄関に「徳島大学附属図書館」の表札設置(H16.7) 2)本館に総合案内図、閲覧室等に日本語・英語・中国語の表示板を設置(H17.3) (4)電子図書館サービス 1)携帯版OPAC稼働(H16.7) 2)国会図書館レファレンスデータベース構築に参加(H17.12~)	(1)開館日・開館時間(最適化)(H17.4~) 1)8月12~15日は一斉休館 2)平日午後9時 9時15分、試験期間中 午後11時 11時15分 3)分館時間外特別利用を学部学生まで適用 (2)本館・分館間のデリバリーサービス 1)図書貸出・返却サービスのデリバリーサービス実施(H17.7~) (3)館内外のサイン更新 1)本館館外掲示板更新(H18.3) 2)分館1階事務室前の掲示板更新(H18.1) (4)電子図書館サービス 1)電子ジャーナル管理ソフトの導入(H17.12~) 2)遡及入力事業(6年目)	(1)開館日・開館時間(最適化)(H18.4~) 1)8月12~15日は一斉休館 2)平日9時 8時40分、午後9時15分 午後10時、試験期間の延長廃止 3)土・日・祝日 午前10時~午後4時 午前10時~午後5時 (2)電子図書館サービス 1)遡及入力事業(7年目) (3)その他 1)本館にAED(自動体外式除細動器)設置(H18.7) 2)読書週間行事、読書啓蒙週間として「しおり」プレゼントの企画(H18.11)

	<p>3)遊及入力事業(10年計画の5年目)</p> <p>(5)その他</p> <p>1)職員に名札着用(H16.10)</p> <p>2)読書週間行事、提言募集(H16.11)</p> <p>3)サービスカウンター応接マニュアル作成(H17.2)</p>	<p>3)デジタルコンテンツ(蜂須賀家臣家譜データベース)作成(H17.6~)</p> <p>(5)その他</p> <p>1)読書週間行事「附属図書館キャラクター」募集(H17.11)</p> <p>2)利用者アンケート実施(H17.12)</p> <p>3)マナーアップキャンペーン開始(H17.6)</p>	<p>3)利用者アンケート実施(H18.5, H19.1)</p> <p>4)利用者懇談会実施(館長と語ろう)(H18.6,12)</p> <p>5)マナーアップキャンペーン(H18.6,12)</p>
図書館活動	<p>(1)図書館案内ツアー等各種ガイドランス</p> <p>1)各種ガイドランスの実施方法等見直し</p> <p>(2)図書館の広報及び出版活動</p> <p>1)図書館ホームページ改訂(H17.3)</p> <p>2)図書館報「すだち」をメールマガジン「すだち」に変更(H17.2)</p> <p>(3)他大学等との連携</p> <p>1)徳島県大学図書館協会総会(H17.2)</p> <p>同上 研修会(H17.2)</p> <p>(附属図書館会議室)</p> <p>(4)講演会等催事</p> <p>1)第16回附属図書館講演会開催(H17.2)</p> <p>(5)地域社会等との連携</p> <p>1)学外者への図書貸出サービスの変更</p> <p>貸出期間本館 8日 14日 分館 8日 10日</p>	<p>(1)図書館案内ツアー等各種ガイドランス</p> <p>1)各種ガイドランス計画策定(ホームページ公開)と実施(H17.4~)</p> <p>(2)図書館の広報及び出版活動</p> <p>1)附属図書館概要作成、ホームページ公開(H17.10)</p> <p>2)附属図書館年次報告書作成、ホームページ公開(H17.6)</p> <p>(3)他大学等との連携</p> <p>1)県内公共図書館とのネットワーク化(H17.4)</p> <p>(4)講演会等催事</p> <p>1)第17回附属図書館講演会開催(H18.2)</p> <p>(5)地域社会等との連携</p> <p>1)学外者への図書貸出サービスの変更(学生と同じ)</p> <p>貸出冊数 本館 3冊 5冊</p>	<p>(1)図書館案内ツアー等各種ガイドランス</p> <p>1)各種ガイドランス計画策定(ホームページ公開)と実施(H18.4~)</p> <p>(2)図書館の広報及び出版活動</p> <p>1)附属図書館概要作成、ホームページ公開(H18.10)</p> <p>2)附属図書館年次報告書作成、ホームページ公開(H18.6)</p> <p>3)情報探索ガイドブックの作成(H19.3)</p> <p>(3)講演会等催事</p> <p>1)「阿波・淡路の五街道」の特別展示(日亜会館)(H18.9~10)</p> <p>2)第18回附属図書館講演会開催(H18.10)</p>
その他	<p>(1)省エネ、CO2削減(H16.4~)</p> <p>事務室の昼休憩中の消灯、夏季等閑散期中の閲覧室の電力削減</p> <p>(2)安全管理対策の強化</p> <p>1)消防訓練の実施(本館H16.12)(分館H17.3)</p> <p>2)緊急連絡用の携帯電話購入</p> <p>3)蔵本分館のカウンター前に防犯用のシャッター設置(H17.3)</p> <p>(3)中期計画の実施に向けて、事業計画書・事業報告書の作成(H16.5)</p> <p>(4)職員研修 初任者等研修(H16.5)及び研修等報告会の実施(H16.9,12,H17.2)</p>	<p>(1)安全管理対策の強化</p> <p>1)消防訓練の実施(本館H17.9)(分館H18.3)</p> <p>2)安全衛生点検の実施(H17.9)</p> <p>(2)職員研修</p> <p>初任者等研修(H17.5,10)</p> <p>研修等報告会(H17.9,12,H18.2)</p> <p>(3)事務組織の再編</p> <p>図書館事務部廃止(H18.3)</p> <p>学術研究国際部設置(H18.4)</p> <p>情報管理課</p> <p>学術情報マネジメント課</p> <p>情報サービス課</p> <p>学術情報サービス課</p>	<p>(1)安全管理対策の強化</p> <p>1)消防訓練の実施(本館H18.9)、蔵本地区防災訓練(分館H18.12)</p> <p>2)安全衛生点検の実施(H18.9)</p> <p>3)本館1階にセキュリティ対策として赤外線センサー設置(H19.2)</p> <p>(2)職員研修</p> <p>初任者等研修(H18.7,10)</p> <p>研修等報告(H18.9,12)</p> <p>(3)事務組織の再編</p> <p>学術研究国際部</p> <p>情報部設置(H19.4)</p>



蜂須賀家家臣成立書並系圖 (データベース近日公開予定)

【メールマガジン登録のお願い】

メルマガ「すだち」で、徳島大学附属図書館の最新情報をお届けします。徳島大学のことだけでなく季節の話題や学外の方に参加していただける講習会、講演会などのご案内いたします。メールに写真や音声を添付することはありませんので、気軽に受信していただけます。目次だけを送付する携帯版もあります(全文へのリンクを貼っています)。

登録はとても簡単です。徳島大学に関心のある方でしたらどなたでも無料で登録できます。登録された情報は第三者に提供することはありませんし、図書館がメルマガお届け以外に利用することはありません。

登録のページは

<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/m-mag/index.html>

徳島大学附属図書館 メールマガ

で Web 検索してください。

登録はメールアドレスのほか簡単な項目だけです。年齢や職業、住所などは必要ありません。



徳島大学附属図書館報 メールマガジン「すだち」2周年記念総集編

平成 19 年 3 月発行

発行 徳島大学附属図書館

〒770-8507 徳島市南常三島町 2 丁目 1 番地

Tel: (088)656-7584

<http://www.lib.tokushima-u.ac.jp/>

編集 徳島大学 学術研究国際部

学術情報マネジメント課総務係

